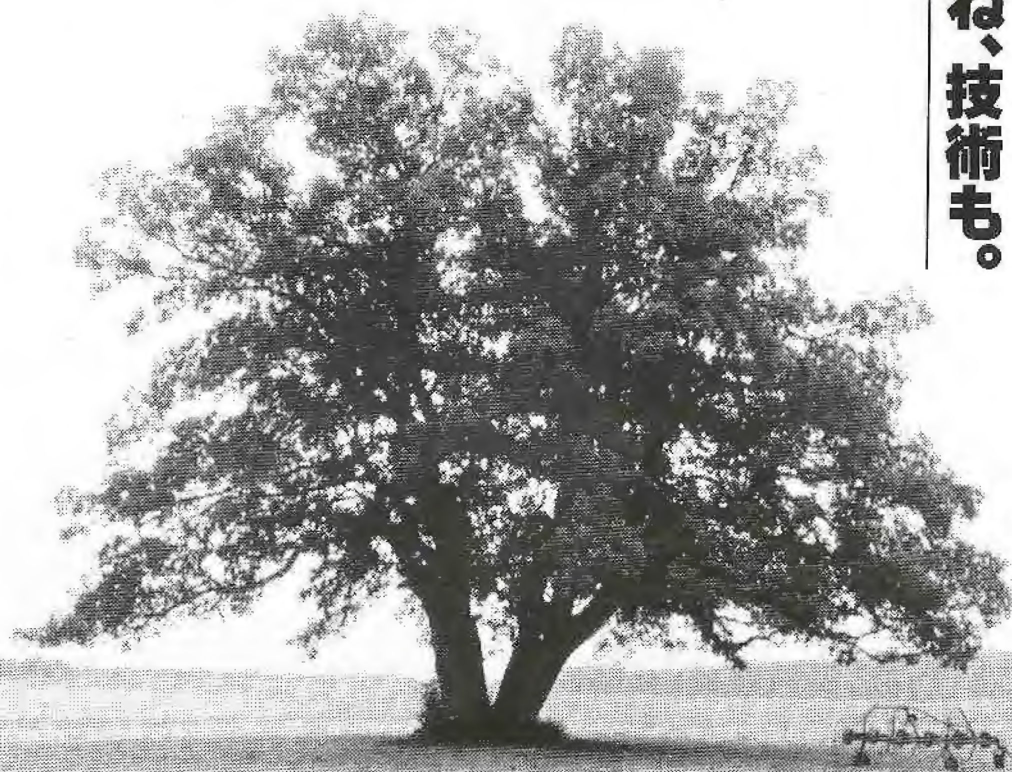




シンプルがいいね、技術も。

近年、〃技術〃はますます高度で複雑になってきました。専門知識を持った人や経験を積んだ人でなくては扱えないような機械もふえています。でも本来機械は、誰もが気軽に使えるものであるべきでしょう。これからの技術には単純明快なわかりやすさが必要なのです。いま日立はインターフェイスという言葉のもとに、人間と技術とのよりよい関係、誰もがかんたんに使いこなせる技術の実現をめざして研究・開発をすすめています。



技術との自由な対話

Interface

株式會社 日立製作所　宣伝部 〒101 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地　TEL東京(03)258-1111(大代)

日本 第3位に終る

第10回アジア大会は、9月20日から10月5日まで韓国ソウルで開催された。ハンドボール競技は、男子のみ、6カ国の参加によるリーグ戦で争われた。

前回のニューデリー大会で中国に敗れ、銀メダルに甘じた日本チームとしては雪辱の意気に燃え乗り込んだのだが、韓国、中国に敗れ、第3位、銅メダルという結果に終った。この大会で2年後のソウル・オリンピックの主催国、韓国はもちろん、オリンピック参加のためのライバルとなる中国、クウェートなどの強化ぶりは、われわれの予想を上回るものであった。

こうした結果を踏まえて、今、改めて一丸となって日本ハンドボール界の再起に向けて戦うべき事を痛感させられた大会となった。

日本チームの戦いの跡

▼第1戦（9月23日）

日本 38 （18―6、20―10） 16 イラン

	〔日本〕	得
GK	井藤	0
GK	大畑	0
FP	西山	13
FP	志賀	1
FP	玉村	11
FP	首藤	4
FP	高村	2
FP	立木	1
FP	宮下	1
FP	奥田	1
FP	市川	3
FP	藤井	1
		38

▼第2戦（9月24日）

日本 33 （21―5、12―5） 10 香港

	〔日本〕	得
GK	井藤	0
GK	矢内	0
FP	西山	6
FP	志賀	0
FP	玉村	5
FP	朝生	2
FP	首藤	6
FP	内藤	0
FP	高村	3
FP	田口	3
FP	宮下	0
FP	市川	8
		33

▼第3戦（9月25日）

韓国 38 （18―15、20―11） 26 日本

	〔日本〕	得
GK	井藤	0
GK	大畑	0
FP	西山	8
FP	志賀	0
FP	玉村	3
FP	首藤	5
FP	高村	1
FP	立木	0
FP	宮下	1
FP	奥田	3
FP	市川	5
FP	藤井	0
		26

▼第4戦（9月27日）

中国 30 （15―13、15―14） 27 日本

	〔日本〕	得
GK	井藤	0
GK	矢内	0
FP	西山	10
FP	志賀	0
FP	玉村	7
FP	首藤	2
FP	高村	0
FP	立木	5
FP	田口	0
FP	宮下	0
FP	奥田	0
FP	市川	3
		27

▼第5戦（9月28日）

日本 23 （8―10、15―12） 22 クウェート

	〔日本〕	得
GK	井藤	0
GK	矢内	0
FP	西山	0
FP	志賀	0
FP	玉村	4
FP	首藤	6
FP	高村	0
FP	立木	5
FP	田口	1
FP	宮下	0
FP	奥田	3
FP	市川	4
		23

	韓国	中国	日本	クウェート	イラン	香港	勝	負	順位
韓国		○ 38―24	○ 38―26	○ 35―29	○ 48―17	○ 45―10	5	0	1
中国	● 24―38		○ 30―27	○ 28―22	○ 35―11	○ 34―16	4	1	2
日本	● 26―38	● 27―30		○ 23―22	○ 38―16	○ 33―10	3	2	3
クウェート	● 29―35	● 22―28	● 22―23		○ 46―24	○ 44―14	2	3	4
イラン	● 17―48	● 11―35	● 16―38	● 24―46		○ 22―18	1	4	5
香港	● 10―45	● 16―34	● 10―33	● 14―44	● 18―22		0	5	6

第10回アジア大会報告

反省から新たな出発を

監督・野田　清

第9回（デリー）後の重点強化策

第9回大会では、インド、クウェート、韓国を連破したものの、決勝戦で中国に19－24で敗れ〝アジアNo.1の座〟を他国へ明け渡してしまった。これは、決して日本がナショナルチームの強化を怠っていたのではなく、ミュンヘン・オリンピック以後ハンドボールがオリンピックの正式種目になったため、各国がナショナルチームの強化を推進してきた結果である。

このような情勢下で、日本チームの強化は、大きく分けて2つのビッグイベントに向けて行なってきた。その1つは、ロサンゼルス・オリンピック出場を目的としたナショナルチームづくりであり、もう1つは、ソウル・オリンピック出場を目的としたナショナルチームづくりである。今回のアジア競技大会は、ソウル・オリンピック強化対策の中間年度とし、本大会に臨んだ。

以下、ロサンゼルス・オリンピック、アジア競技大会までの重点強化策について述べる。

ロサンゼルス・オリンピックの強化は、新ナショナルチーム編成後半年間でアジア地区予選を突破する必要があったので、短期決戦型のチームにせざるを得なかった。

このため、選手を、各ポジションごとに国内の優秀なプレーヤーの中から選抜し、半年間に10回の国内合宿と2回の海外遠征を行ない、以下に述べる5点を中心とした強化策を推進し、ロサンゼルス・オリンピックの出場権を獲得した。

〈強化策〉

1、スピード・パワー・スタミナのアップ
2、フットワーク力アップによるディフェンスの強化
3、個性あるプレーヤーの育成
4、効率のよい頭脳的なプレーの修得
5、相手を上回る旺盛な闘争心の養成

ロサンゼルス・オリンピック終了後、直ちにソウル・オリンピックのためのナショナルチームを編成した。年齢25歳以下で、実業団、大学生などを中心に候補選手を40名選出し、一九八四年10月に合宿を行ない、ナショナルA、B（各20名）を編成し、アジア競技大会までの期間、月1回6日間の合宿と欧州遠征2回、アメリカ遠征1回を行ない、以下に述べる5点を中心とした強化策を推進してきた。

〈強化策〉

1、基礎運動能力（筋力、瞬発力、敏しょう性など）のアップ
2、強靱な精神力の養成とナショナルプレーヤーとしての自覚
3、日本としての特徴（スピード、テクニック、理論）を生かしたチームづくり
4、数種のオフェンス、ディフェンスの基本パターンのマスター
5、個性的（シューター、ディフェンサーなど）なプレーヤーの育成

しかし、一九八五年6月から一九八六年3月までの10カ月間、元オリンピック選手の不祥事件により、監督と選手8名がナショナルチームを辞退したため、合宿などの諸活動に参加できず、強化の面から大きな痛手となってしまった。

これらの辞退者が一九八六年4月に復帰した後は、スタッフ、選手が一体となり、総力をあげてチームの強化を図り、アジア競技大会へ臨んだ。

選手選考の経緯と大会対策

一九八二年、ニュデリー大会後は、ロサンゼルス・オリンピックを目標とし、メンバーは、モスクワ大会出場資格選手を軸とし、個性プレーヤーと若手選手を加えて、ナショナルチームを編成した。

「アジア予選を勝ち抜いてロサンゼルス・オリンピックに出場する」ことを強化の目標とし、国内合宿および一九八三年9月欧州遠征（西独、ユーゴスラビア）を経て、第3回アジア選手権大会に臨んだが、決勝戦で韓国に敗れ、2位に終った。この敗戦原因を徹底究明し、韓国対策をねりあげ、本大会に向けてトレーニングを積み、見事ロサンゼルスアジア地区予選を突破し、出場権を獲得した。

ロサンゼルス・オリンピック終了後、新たにオリンピック出場経験者5名を含んだソウル・オリンピック候補のナショナルチームを編成し、諸強化策を推進した。途中、ロサンゼルス・オリンピック出場者の不祥事件により1名脱落した。この穴埋めをするため2名のロサンゼルス・オリンピック出場者を再エントリーし、万全の体制を組み、アジア競技大会のための強化策を推進したが、一九八五年11月、第11回世界選手権東アジア地区予選で韓国に敗れ、代表権を、世界選手権大会参加以来初めて失った。

このため、19名のアジア競技大会候補選手を選抜し、一九八六年7月中旬から1カ月間ユーゴスラビアに遠征を行ない、世界一のユーゴスラビアハンドボールを、ユーゴナショナルチームのコーチから直接指導を受け、ユーゴハンドボールの多くの素晴らしい点を日本チームへ吸収し、チーム力の向上を図った。

現地でのコンディショニング

ソウル市は、アジア競技大会直前合宿地であった北海道の北見市と気候がよく似ていたので、天候などの要因で選手がコンディションを崩すような状況ではなかった。

宿泊施設についても、3LDKに8人泊るようになっており、生活空間も十分にあり、選手間のコミュニケーションも図られ、スポーツ選手が生活するには申しぶんのない施設であった。

チーム全体のコンディショニングをみると、7月中旬から1カ月間ユーゴスラビアに遠征をし、ユーゴハンドボールをたくさん吸収

してきたのであるが、帰国後、国内大会のスケジュールの関係上、再確認のためのトレーニング時間を十分に取れなかった。ソウルで最終の調整トレーニングをしてチームを仕上げようとしたが、与えられたトレーニング時間は1日1時間30分のため、十分なコンビネーショントレーニングができなかった。このため、試合が開始されて以降は、「ゲーム→チェック→フォロートレーニング」のパターンで日々を過ごしたため、選手も精神的な余裕を十分にもつことができなかった。また、試合会場まで、バスで1時間を要するとともに、体育館の出入りに関し、厳しい警備によるチェックがあったため、チーム全体のゲーム前のムードを盛り上げるのに苦労した。日本チームとしては、常にベストな状態で試合に臨めるよう努力した。

試合経過と戦評

試合は、最終エントリー国が6カ国になったため、各国総当りのリーグ戦方式により行なわれた。日本チームとしては、ニューデリー大会で奪われた「アジアNo 1の座」を挽回するため〝金メダルを獲得しソウル・オリンピックへつなごう〟を合言葉に、チーム一丸となって各国チームと以下のとおり対戦した。

▼第1戦（9月23日）

日本 38（18―6／20―10）16 イラン

初戦のイラン戦は、日本チームとして初めての対戦国でもあり、このイランを激破することが日本チームにとって、本大会で好リズムへつなげるための重要な一戦であるので、チームの総力をあげて闘った。また、順位決定方式が、勝ち点同率の場合は、総得点と総失点との差によって決める方式なので、1点でも多く得失点差を開くように攻守で頑張ることをミーティングで確認した。

試合開始後は、日本チームの堅さが目立ち、攻守に精彩を欠き、6分間を過ぎても4対4の同点であった。時間の経過とともに堅さがほぐれ、防御でのフォローディフェンスがよくなり、守って速攻に結びつけるというパターンで、前半を20対10で終了した。後半に入っても、日本チームは堅い守りでイランの攻撃を防ぎ、着実に得点差を広げていった。特に後半の残り10分間は、イランの攻撃を無得点に抑え、18対6の大差で勝ち、第1戦を飾った。

▼第2戦（9月24日）

日本 33（21―5／12―5）10 ホンコン

6カ国中チーム力が一番劣るホンコンチームだけに、同率になった場合に備え、1点でも多く得失点差を貯金すべきゲームであったにもかかわらず、日本チームは、大観衆のホンコン応援に煽られたのか、立ち上がりから沈着冷静なプレーがみられず、イージーなシュートミスをくり返し、ホンコンチームを勢いづかせ、結局前半は12―5の7点差で終了した。ハーフタイム後は冷静さを取り戻し、攻守ともにリズムがとれ、ホンコンを全く寄せつけず、21―5で大勝をした。しかし、このゲームで35点以上の得失点差が取れなかったことは痛かった。

▼第3戦（9月25日）

日本 26（15―18／11―20）38 韓国

アジア大会の金メダルを獲得するためには絶対に負けられぬ一戦であり、チーム全員が必ず勝つのだという強い信念のもとにこの一戦に挑んだ。

試合は、韓国ボールでスタートしたが、すぐに1点奪われるとともに、10分間で韓国のポイントゲッターに5連続ゴールされディフェンスのリズムを狂わされたが、攻撃でよく頑張り、12分には6―8と互角の闘いをした。しかしながら、ディフェンスの立ち直りと攻撃での得点率が悪くなったことにより、前半11対20と思わぬ大差をつけられてしまった。

後半の立ち上がりは、ディフェンスの動きもよく、2点連続得点をあげ、さあ反撃という時に攻守でイージーなミスを続けてしまい、自らリズムを崩し、後半も15―18で敗れ、金メダルは夢と消え去った。

このゲームでは、特に韓国チームの勝利に対するすさまじいまでの闘争心とよく洗練された攻守が目立ち、それに比べ、日本チームのひ弱な精神力と攻守での未熟な技術力が目についてしまった。持てる力を十分に発揮できないまま敗れたことが残念でたまらない。

▼第4戦（9月27日）

日本 27（13―15／14―15）30 中国

この試合は、アジア競技大会での自力による銀メダルの獲得と、一九八七年11月までに行なわれるソウル・オリンピックアジア地区予選の前哨戦ともなり、重要な意味をもつ一戦であるため、日本チームとしては背水の陣でこの闘いにかけた。

この試合では、今までの試合とは若干布陣を変え、高村をDF専門とし、攻撃にリードマンの田口を起用した。また、DFの要である志賀と立木を変え、速い攻撃力に重点をおいた。立ち上がり、日本チームの堅さがあるところを中国に攻められ、3連続ゴールを許したが、首藤のロングシュートが決まった段階でチーム全体が守りのリズムをつかみ、1点差を争う

ゲームとなった。日本のフォローディフェンスが中国の攻めをよく防ぎ、中国がストーリングをする程であったが、日本の攻撃が貧攻のため、どうしてもリードが奪えなかった。ノータイム時に同点のペナルティーをはずし、前半を14対15で終った。

後半に入り何度も同点のケースがあったが、どうしてもリードが奪えず、遂に首藤が2分間退場時に3点取られ、これが最後まで尾を引き、結局27対30で敗れ、自力での銀メダルを逸した。この試合のリズムは終始日本が握りながら、貧攻によりこのゲームを落としてしまった。

▼第5戦（9月28日）

日　本23（15—12 / 8—10）22クウェート

クウェートは、一九八六年3月から、ユーゴナショナルチーム監督ジブコビッチをコーチに招聘し、チームの強化を図っており、本大会でも韓国、中国に僅少差で敗れており、かなりの実力をつけていた。日本チームとしては、クウェートには得失点差で負けているだけに、この試合に勝たなければ銅メダルは取れないという厳しい状況下で試合に臨んだ。

試合の布陣は中国戦と同じにしたが、GKは矢内を先発させた。立ち上がりからクウェートの攻撃をよく防ぎ、14分には8対4と4点リードしたが、5点差にするチャンスが何度もありながら最後のシュートが決まらず、前半でクウェートを突き放すことができなかった。また、ノータイムのペナルティースローもはずし、前半15対12で終った。

後半に入ると日本チームの攻めが急に消極的になり、14分間ノーゴールであった。逆にこの間クウェートに5点取られ、2点のリードを許してしまった。その後、首藤、市川、奥田が得点をあげ、再度逆転をし、かろうじて勝利をものにし、銅メダルを獲得した。

競技の総評と反省

本大会の目標は、〝アジアNo.1の座〟の挽回と金メダルの獲得であったが、韓国、中国に敗れ銅メダルに終ってしまった。

優勝した韓国は、開催国だけあって、長期間の合宿を行ない洗練された攻守の技術、技能を習得していた。また、本年の世界選手権でルーマニア、チェコなど、世界の強豪国と互角以上の闘いをしたのも大きな自信となっていた。さらに、ほう賞金制度を導入するなどをし、プレーヤーの士気を高めたことも勝利への大きな原動力になっていたと考えられる。

中国は、西独にハンドボールを学び、クウェートはユーゴスラビアにハンドボールを学び、ともに自国チームの強化を強力に推進しており、全く予断を許さない状況であった。

日本チームとしても、世界に目を向ける前にまずアジア諸国に目を向け、これらの国に対する諸施策を推進しなければ、永久に〝アジアNo.1の座〟は取り戻せないことになると思われる。日本がアジアのチャンピオンチームになるために、もう1度原点に戻り、ジュニアからナショナルチームまでの強化策を総見直しする時期に来たと思う。今からでも決して遅くはない。

以下に本大会での反省事項を列記し、これからの日本チームの強化策推進のための基礎としたい。

(1)精神面での反省事項

①ナショナルプレーヤーとしての強靱な精神力の不足。（闘争心、集中力、執着心など）

②国際試合の経験が少ないため、1点を争う試合に弱い。

③全般的に勝負根性が弱い。

(2)技術面での反省事項

①スピードハンドボールの追求不足。

②リードオフマンの不足。

③ディフェンス力の向上に対し、オフェンス力の伸びが低く、安定感がない。

④そつのない頭脳的なオフェンスができない。

ア、アシストプレーの不足（特にフローターの役割遂行不足）。

イ、速攻での展開力に対する技能不足。

ウ、相手ディフェンスとのかけひき間合いの取り方が十分でない。

エ、2、3人でのコンビネーションプレーによる得点力不足。

⑤頭脳的なディフェンス能力の不足。

ア、相手プレーヤーとの適切な間合いやかけひきなどの能力不足。

イ、フットワーク力の不足。

ウ、相手の攻撃リズムを崩すためのディフェンス力（先読み、ファールの取り方など）が十分でない。

エ、サイドディフェンスが弱い。

⑥個性的なプレーヤーの不足。

ア、ガッツあるプレーヤーが少ない。

イ、プロディフェンサーの不足。

ウ、安定した得点力のあるフローターの不足。

(3)体力面での反省事項

①試合スタミナの不足（体力、集中力、精神力など）。

②スピードの不足（走力、瞬発力など）。

③上半身の筋力不足。

(4)その他の反省事項

①スピードハンドボールと頭脳的な攻守を目ざしたが、十分に仕上げることができなかった。

②ユーゴスラビアで学んだオフェンス、ディフェンスパターンが、トレーニング期間の不足により十分に活用できなかった。

③国内の大会スケジュールとの関係により、本大会に合わせた効果的な練習計画が推進できなかった。

④アジア地区のレフェリングに慣れていなかった。

⑤特別な事由により一部のナショナルプレーヤーが10カ月間、合宿遠征などに参加できなかったため、十分な強化を推進できなかった。

以上のとおり、目標が未達になってしまうと多くの反省事項があげられるが、最終責任は、監督として総合的な指導力が欠けていたものと強く反省している。今後は、これらの反省事項を踏まえて、コーチ、選手の協力を得て、ソウル・オリンピックの出場権を獲得するために最大限の努力を傾注することをお約束し、アジア競技大会までご指導ご協力いただいた日本体育協会、および日本ハンドボール協会の関係者の皆様方に感謝を申し上げ、報告としたい。

選手たちの感想文から

アジア競技大会に参加して

井藤英忠

今回の第10回アジア競技大会へ、日本代表選手団の一員として参加できたことを光栄に思います。私自身としては、第9回のインド大会に続き2度目の参加となりました。インド大会では中国に敗れ第2位の銀メダルという成績でした。今回は雪辱に燃え、金メダルを目指し今大会へ望みました。結果は、韓国、中国に敗れ、第3位でした。3位といっても、3位決定戦のクウェートにも、1点差勝利という僅差で、実力はほとんど同じと思います。

以上はハンドボール競技についてですが、我々日本選手団は、金メダル数で、前回の大会で中国で抜かれ、今大会で首位奪回を目標に頑張ってきましたが、中国、韓国、2国の争いに終り、日本は3位で全く取り残された形でした。中国の実力はかなり知っていたのですが、韓国の勢いは想像以上のものでした。国全体の盛り上がり、一体感、応援では、選手はいやでも燃えあがると思います。8年後に、日本の広島でアジア大会が開催されますが、今回の韓国程、国民全体が関心を持ち、応援してくれるのか？と思うと不安が残ります。

選手村の生活は大変に良かったと思います。特に食生活の面では、どうしても前回のインド大会と比較してしまいますが、大変おいしく日本人の口に合っていたようです。選手の部屋も広く、過しやすかったように思います。全体的には、ロス・オリンピックに大変似たシステムで運営されていたようです。

民族衣装を着た韓国女性の姿がとても印象に残っています。韓国にとって、今回のアジア大会は大成功であったとともに、ソウル・オリンピックに向け、運営面、競技面においても大きな自信となったに違いありません。ソウル・オリンピックでは、韓国々民の期待は今回以上で、盛り上がりもすさまじいと思われます。それに対応すべく、早く対策を立て、もう一度ソウル・オリンピックを目指し、頑張らなければなりません。

韓国の国情

藤井　泉

27ヶ国から史上最多の約4千8百人、この内日本選手団551人が参加した第10回アジア競技大会は、9月20日に開催され10月5日夜、ソウルの五輪スタジアムで閉会式を行ない16日間にわたった大会の幕を閉じた。

韓国が一九八八年ソウル五輪のリハーサルとして総力を挙げて取り組みしたとされるこの大会は、整備された施設、円滑な運営にその意気込みが表われていたように思われた。しかし一方では、不安定な朝鮮半島の情勢を反映するように、開幕6日前、金浦空港爆弾テロ事件が発生しこのアジア大会は、厳戒態勢下のスタートを切ったわけである。

その中で北朝鮮、ベトナムなどがボイコット、イランの選手が亡命を求めたといわれる事件も起きて政治的問題が、オリンピック同様にスポーツの世界に影響を与えたことは、私個人だけでなくスポーツを愛する人たちにとっても悲しい出来事だと思う。しかし、大会期間中何事もなく無事に終了したことは、とても喜ばしいことであったと思う。

対イラン戦について

宮下　和広

9月23日やっと初戦のイラン戦の日がやってきた。

サブ体育館でのアップを終えメイン会場に入って人の多さにビックリ。約5千人だったそうだ。

いよいよ試合開始。やはり初戦ということと場内の雰囲気にのまれたのか足が地についていない感じだった。守りの時、自分では前につめていると思っても外から見たら足は動いていないし、前にもつめていなかったようだ。そしてイランのレベルも低かったので攻めらしい攻めをしてこない訳の分からないシュートを打たれ、それが決ってしまうというのも1回当たってデットしきれず、そこで見てしまい、そこからDFにからんで打たれるとキーパーも反応できなかったそうだ。DFがそんな状態だから、速攻も出ないし遅攻になってもなかなかリズムが取れなかった。私はDF中心にやっていたので、とにかくコートに立ったときは声を出してDFでリズムを取れればと思い必死だった。

前半15分過ぎぐらいからやっとDFで何とか頑張れるようになり、OFもリズムがよくなり、日本のペースで試合をすることができ、後半もOF、DF共にうまくかみ合いこのゲームを勝つことができた。

試合前にもスタッフの方からスタート10分は積極的にといわれていたのにできないとは情けないことである。OFの場合、確実にいこうという意識が強すぎるのか前を攻めずにパスをしてしまうので攻めにならない。DFは前に出てデットするという約束なのにそれもできない。

とにかく、私もこんな大きな大会あれだけの観衆の中でプレーをするのが初めてなので、今考えれば平常心でできなかったのかと思う。この大会に参加させて頂きいい勉強になったと思います。これからは同じミスをしないように精進していきたいと思います。

対香港戦について

内藤　浩樹

第1戦目を勝利で飾り、勢い付いて臨んだ第2戦目は、香港との対戦である。体格、技術、（戦術）などともに上回る全日本チームは、誰もが出だしから日本が優勢に試合運びができるだろうと予想していた。しかし、先取点を香港に許し、さらに前半7分に日本が1点目をあげるまで、イージーミス、及びシューミスを含め6本のミスが出足を鈍らせた。以前から、出だしの悪さが課題の一つであっただけに残念である。

前半12分に3−3となってから日本はディフェンスで踏ん張り、前半の残り18分間を2失点だけに抑え、逆に速攻、ロングシュートを混じえ12−5とリード、日本のペースで前半を折り返した。

後半、高い位置からのシュート（ロングシュート）力に欠ける香港は、どうしても個々のドリブル、フェイントから淡白なプレーになり、終始攻めのまずさが目立った。この香港から守りでミスを誘い、速攻に結びつけ得点を重ねた。

一方香港も、サイド、ポストなどで得点を重ねるが、依然ミスが多く、そのミスがすべて得点に結びつけられてしまい、点差は広がる一方であった。結局後半21—5とし、最終的に33—10とワンサイドの試合となった。

日本はこの試合、勝ちはしたものの、内容的に出だしの悪さ、ミスの多さが反省点としてあげられるであろう。

選手村の生活

立木　浩二

自己のベストコンディションを作りあげ、選手との友好を深め、また、緊張し高まった心身を休める所、それが選手村である。

爆発事件もあったため、金浦空港からは、より一層厳重な警備体制が施かれ、すべて白バイ、パトカーの護衛付きバスで移動した。選手村に入るのにも4つほどの検問ゲートを潜らなければならず、重々しい雰囲気であった。また、首にはADカード（身分証明書）を常時かけておかなければならない。

生活していく上で大切な『住』宿舎は、18階建の新築マンションで、アジア大会終了後は、1戸2千万円で入居者が決定してるそうだ。4LDKで1戸8人ずつ、我々ハンドボールは、2戸に分かれて入った。各棟の入口には、1～2名の警備員もしくは棟責任者が配置され、宿舎の安全を約束してくれた。また、ルームサービスも担当の女の人が毎日行なってくれて不自由な点はなかった。

これも大変大事である『食』。食堂は常時オープンしていて、すべてセルフサービス・バイキング方式、種類も豊富で味もなかなかのもので、ついつい食べ過ぎてしまう毎日であった。特に日本そば、みそ汁などが出た時はやはりうれしく、その日の試合が絶好調のような気さえした。その他の施設としては、ショッピングセンター。ここにはソウル・オリンピックのマスコット『ホドリ君』のキャラクター商品をはじめ各種の土産が用意されていて一部免税店も加入していた。電話局、郵便局、床屋、銀行、クリーニング店、ディスコ、などなど、アルコール類を扱っていないだけで何でも揃っていた。

選手村では当然アジア各国の選手、ライバルと顔を合わすことになるが、村内においては国が違っても、そんな意識はあまりない。ディスコへ行って、クウェートの柔道の選手と片言の英語に身振り手振りを加え、必死で話したり、また、少し覚えた韓国語でコンパニオンと話したり、このような友好、息抜きも多少は必要だと思った。

選手村から出る事は許されてはいたが、試合、練習を除けば、スポーツメーカーへのショッピングぐらいで、村内で十分な生活は送れた。私は選手村という環境に入ったのは初めてだが、非常に気分よく生活する事ができた。

これだけすべての物が揃い、各国からの何千という滞在者がいる所は、もはや『村』ではなく『選手町』と呼ぶべきだろう。

対韓国戦について

西山　清

対韓国戦、冷静な目で見て心・技・体共に完敗だったと思います。この韓国チームの強さは、なんと言ってもおのおののすばらしい個人技が中心に成り立っています。今までの韓国チームは、すばらしい個人技はもっていましたが、それイコールチーム力にはなっていなかったように思えました。しかし、この大会に関しては、元来の個人技がうまくチーム力となって生かされていたように見えました。

それに、韓国のハンドボールの考え方は、短所をけずるよりも、長所を伸ばす考え方が日本よりも強いように思えます。その考えが、あの抜群の攻撃力につながっているように思えます。とにかく、ハンドボールをやっている韓国チームは、おのおのが生きているし、自信に満ちていました。多くのハンドボール関係者は、韓国のハンドボールは一種のマシーンだと言うけど、私にはそうは見えません。一つ一つのプレーにちゃんと感情が入っていたし、なんと言ってもあんな生き生きとしたハンドボールチームを今までに見たことがありません。たぶん、私たちにわからない考えというか、哲学がそこにあるのではないかと、私自身には感じられました。

私はこの一戦を終えて、韓国チームの強さもさる事ながら、それを引き出しているハンドボール理論についても大変興味をもった一戦でした。

ヨーロッパとアジアのハンドボールの違いについて

玉村　健次

近代のハンドボールは、世界各国でも大型化が進んでいますが、その中でもヨーロッパの国々は、各ポジションのスペシャリストの養成に力を入れていると思われます。アジアのハンドボールも、スペシャリストの養成に力を入れてきていますが、ヨーロッパの国々の選手層の厚さには、まだまだ及んでいないと思います。

日本の場合でも、現在問題になる事は、選手層が薄く、新しいポジションなどで試合をするケースが多いという事です。選手の選び方でも、ヨーロッパは、そのポジションに適している選手を見つけだし、それから育成していきますが、日本の場合は、良い選手を選んでからどこかのポジションを育成しているので、これにも問題が

あると思います。

ヨーロッパ、特にハンドボールを国技的に行なっている国々では、子供の頃からハンドボールを行ない、子供の頃から代表選手を夢見て練習しています。やはりアジアの国々もこれからヨーロッパの国々に勝とうとするならば、組織だった中にも、スペシャリストを育成し、ヨーロッパにないハンドボールを行なっていかなければならないと思います。

対中国戦について

高村　誠一

韓国に負けてしまった全日本だったが、まだ金メダルの可能性が無くなったわけではなく、加えて来年行なわれるであろうオリンピック予選につなげるために、是非ともこの中国戦に勝っておかなければならなかった。

日本は最初、フォーメーション、二人のコンビなどを使い果敢に攻めるが、中国GKの好守によって最終のシュートが決まらず、逆にそのボールを拾われて、速攻にもち込まれ前半3分で3点のリードを許す。前半4分、ようやくここで日本は、フォーメーションから首藤が右下に打ち込み1—3とする。その後互いの攻防が続き、10分過ぎたところで中国8番が退場したスキに、立木がポストから飛び込み4—5とつめ寄る。おまけに11番の退場を誘い中国が4人になったところで5—5と追いつく。その後、日本は追いついては離され、追いついては離されをくり返し、前半を14—15で折り返した。

後半に入り、玉村がペナルティーを決め、試合をふりだしにもどしたが、なかなかリードする事ができない。その後も一進一退をくり返したが、中国が変形1—5DFをしはじめてから、日本はボールが回らなくなり、2〜3の点差はなかなか縮まらない。後半に入ってから日本のDFにも退場者が続き、追い上げムードに水をさした。

アジアのハンドボール

田口　隆

今回、第10回アジア競技大会に参加し、肌で感じたアジアのハンドボールをここに述べてみます。

まず最初にとても印象的だったのは、上位チームのうち日本を除く、韓国、中国、クウェートの3チームはディフェンスにおいて1—2—3ディフェンスを主として前へ前へと出てくる形をとり、マイボールになると素早く速攻につなげるといった具合でした。

また、韓国は体は決して大きくはないが、とても良いバネを持っていて、パスを一つ、二つとつなぐうちにシュートまでいくというように、積極的な攻撃がとても印象的でありました。全体にディフエンスを一生懸命するというより、攻撃力で相手を負かすといった具合に、全試合において高得点をとる試合が目につきました。アジアのハンドボールも世界レベルにどんどん近づいているのが感じられました。

対クウェート戦について

矢内　浩

クウェート戦は、結果的に3位決定戦になった訳ですが、今の全日本チームの現状ではクウェートといっても侮れない相手であると試合前から思っていました。対韓国戦の後半は、特に実力以上の力を発揮し、韓国を最後まで苦しめ、今大会中最も接戦したチームだったからです。

試合については、日本が先行し前半10分で7対3でリード、相山DF3—2—1をうまく攻め、DFの前に詰めるためポスト攻撃を多くして得点を重ねた。相手もポスト攻撃を警戒してか、前半15分ぐらいから0—6DFに切り替え、ポストを重点的に守るようになり、日本の攻撃もロング、ミドルに切り替えたが、相手GKに阻止され思うように点が取れなくなった。相手No.6のセンターの選手の強引なカットインからのシュート、ポストシュート、PTととられ、少差につめられる展開になった。しかし、日本も対中国戦からDFが良くなっていたため、踏ん張ることができ、前半15対12の3点差で終了しました。

ハーフタイムのミーティングでは、この試合に絶対勝って銅メダルでも日本に持って帰りたいという気持ちが高まり、自分たちでやらなければならないと意気込んで後半に臨みました。しかし、自分たちの気持ちとは裏腹に、相手GKにシュートを取られ、14分まで得点をあげることができず逆に2連続得点され、15対17と2点リードされてしまいました。日本がいつも後半リズムが悪くなり、自分たちの実力を出しきれなくなるのはなぜかと自分なりに考えると、〝誰かがやってくれるだろう〟という気持ちが出て、自然に足が止って、攻撃のリズムがとれなくなってしまうのではないかと思います。韓国などは逆に、「自分が」「自分が」と積極的になっています。日本は慎重になりすぎてしまい、慎重になればなるほど、相手DFの「思うツボ」にはまって、自分たちのミス引き起こす原因を作って、結果的に、自分たちの手で自分たちの首を絞めることになってしまう。これらの精神的な弱点を今後修正することが必要であると思います。

試合の方は、最後の最後まで自分たちのペースを掴むことができず、苦しい試合をしてしまいました。結果は、23対22で勝つことができましたが、今後に多くの問題を残した大会であったと思います

第41回国民体育大会



甲斐路に熱戦を展開

第41回国民大会ハンドボール競技は、10月13日より17日までの5日間、山梨県塩山市で開催された。

今大会、成年の部で波乱がつづき、男子は埼玉（大崎電気）が広島（湧永製薬）を破り、女子は有力と思われた熊本（立石電機山鹿）と埼玉（大崎電気）が共に準々決勝で敗退、三重（ジャスコ）が茨城（日本ビクター）を破って優勝を飾った。

少年の方は、男子が福岡（久工大付）、女子が石川（小松市女）と有力チームが順当勝ちを収めた。

成年男子

埼玉（大崎電気）が優勝

▼1回戦

愛知（大同特殊鋼）33〔15—6 / 18—13〕19 岩手（花巻クラブ）

○…前半15分まで同じようなプレーが続き五分五分であったが、その後愛知はシュートを確実に入れ、点差を広げた。後半、岩手は20分まで弱気のプレーが目立ち、そのプレーが続いた。（菅野）

〔岩手〕	得
GK 鎌田	0
GK 佐藤	0
FP 谷川	1
FP 中島	5
FP 及川	1
FP 森田	0
FP 大沢	0
FP 山口	0
FP 吉田	1
FP 谷藤	8
FP 藤原啓	0
FP 藤原賢	3
PT	(1) 19

（審・水越 上小沢）

〔愛知〕	得
GK 上村	0
GK 秋吉	0
FP 田中	4
FP 内藤	0
FP 高村	4
FP 小野	3
FP 市川	5
FP 中本	2
FP 名取	5
FP 蒲生	7
FP 横浜	3
FP 海江田	0
PT	(1) 33

東京（三景）33〔14—14 / 19—13〕27 沖縄（浦添ク）

○…前半途中までは一進一退の展開であったが、15分過ぎから東京がロングやカットインでリズムをつかみ12—8とリードを広げた。しかし、前半終了5分前からミスが目立ち始め、粘る沖縄がこれを速攻に結びつけて追いつき、14—14で前半を終る。後半開始直後、沖縄が2点リードしたが、善戦もここまで。ロングとポストがかみ合い出した東京に突き放された。（上小沢）

〔沖縄〕	得
GK 新垣泰	0
GK 玉城	0
FP 黒島	6
FP 松田	0
FP 新垣志	2
FP 内間	6
FP 宮城	1
FP 上原	1
FP 城間	0
FP 新里	0
FP 嘉舎場	7
FP 高良	4
PT	(6) 27

（審・菅野 半田）

〔東京〕	得
GK 中村	0
GK 北川	0
FP 田畑	3
FP 大谷	0
FP 近藤	4
FP 高橋	0
FP 峰尾	0
FP 梶永	0
FP 田村	8
FP 鈴木	5
FP 山田	0
FP 郡司	13
PT	(3) 33

愛媛（選抜）31〔16—5 / 15—9〕14 北海道（函館有斗ク）

○…開始から愛媛は速い攻撃と固い守りで8—0とリードを広げ、愛媛ペースで展開されたが、後半、北海道も気迫のあるプレーをし試合を盛り上げた。（半田）

〔北海道〕	得
GK 野村	0
GK 奥村	0
FP 岡田	0
FP 佐藤	0
FP 山口	1
FP 三浦	9
FP 兼田	1
FP 近嵐	0
FP 清水	1
FP 高橋	1
FP 鈴木	1
FP 高桑	0
PT	(1) 14

（審・千野 手塚）

〔愛媛〕	得
GK 鈴木	0
GK 塩田	0
FP 今井	9
FP 土井	1
FP 東福	9
FP 定岡	4
FP 佐藤	0
FP 萬屋	0
FP 塩崎	0
FP 北谷	0
FP 川田	4
FP 金子	4
PT	(3) 31

▼準々決勝

広島（湧永製薬）26〔13—7 / 13—14〕21 愛知

○…開始から着々と加点する広島に対し、愛知は相手GKの好守にあいなかなか得点をあげられず、広島がリード。後半、コンビのとれ出した愛知が徐々に追い上げ好ゲームになったが広島の快勝。

広島には退場者が続出し、トップチームのプレイの激しさが際立ったゲームであった。（北井）

〔愛知〕	得
GK 上村	0
GK 秋吉	0
FP 田中	0
FP 内藤	0
FP 高村	2
FP 小野	4
FP 市川	2
FP 中本	1
FP 名取	5
FP 蒲生	4
FP 横浜	1
FP 海江田	2
PT	(3) 21

（審・菅野 半田）

〔広島〕	得
GK 大城	0
GK 井藤	0
FP 河原	2
FP 生駒	5
FP 玉村	9
FP 酒巻	4
FP 志賀	0
FP 中川	3
FP 内田	1
FP 檜原	2
FP 山本	0
FP 奥田	0
PT	(4) 26

山梨（日川ク）38〔17—10 / 21—13〕23 長野（全長野）

○…山梨ペースのゲーム展開で前半より朝生、古尾が着実に得点しリードを広げていった。長野もよく反撃する山梨GKの好守に

阻まれた。山梨は終始足が動いており、スピーディなゲームで勝利を手中にした。（代永）

得	〔長野〕		〔山梨〕	得
0	中島	GK	菊島功	0
0	片桐	GK	辻	0
0	竹内	FP	武藤寛	4
3	塩川亮	FP	関口	5
7	矢島	FP	古屋	7
2	行田	FP	佐藤	1
4	小山	FP	中沢	3
1	渡辺	FP	菊島裕	5
1	中村	FP	広島	1
2	塩川和	FP	朝生	10
2	岩下	FP	武藤久	1
1	菅沼	FP	窪川	1
23	(1)	PT	(3)	38

（審・上久保 北井）

東　京 33（16—13／17—10）23 大　阪
（大阪イーグルス）

○…前半から東京のロングシュートが決まり先行、追いすがる大阪もディフェンスの甘さからなかなか追いつけず、そのまま終了した。（半田）

得	〔大阪〕		〔東京〕	得
0	信貴	GK	中村	0
0	太田	GK	北川	0
0	勝本	FP	田畑	8
2	源野	FP	大谷	0
3	成願	FP	近藤	5
1	大西	FP	高橋	0
0	三谷	FP	峰尾	0
0	厚ヶ瀬	FP	福永	2
0	高橋	FP	田村	8
2	岩本	FP	鈴木	7
15	辻本	FP	山田	0
0	杉尾	FP	郡司	3
23	(2)	PT	(4)	33

（審・市瀬 代永）

埼　玉 41（18—8／23—8）16 愛　媛
（大崎電気）

○…強豪埼玉に対し愛媛は立ち上がりからよく動き、意表をついた得点をあげて健闘する。時間の経過とともに力の差は歴然とはしたものの、愛媛もよく頑張ったゲームであった。（北井）

得	〔愛媛〕		〔埼玉〕	得
0	鈴木	GK	岡部	0
0	塩田	GK	矢内	0
2	今井	FP	松岡	5
2	土井	FP	大和田	4
5	東福	FP	武田	8
2	定岡	FP	首藤	8
0	佐藤	FP	中田	5
0	萬屋	FP	宮下	7
3	塩崎	FP	越迫	1
1	辻谷	FP	菅田	0
0	川田	FP	大野	1
1	金子	FP	星野	2
16	(0)	PT	(2)	41

（審・菅野 半田）

▼準決勝

広　島 23（11—9／12—9）18 山　梨

○…立ち上がり山梨がセットプレーから4点を連取。広島が14分に追いつき一進一退の展開となった。20分過ぎ、広島は走りと速いパス回しから得点を重ね。12—9で前半を終了した。後半両チームスピードと技のぶつかり合いの好ゲームを展開したが、パワーに勝る広島が23—18で決勝に進出した（笠井）

得	〔山梨〕		〔広島〕	得
0	菊島功	GK	大城	0
0	辻	GK	井藤	0
2	武藤寛	FP	河原	3
3	関口	FP	生駒	6
3	古屋	FP	玉村	4
0	佐藤	FP	酒巻	3
2	中沢	FP	志賀	2
4	菊島裕	FP	中川	0
1	広瀬	FP	内田	0
3	朝生	FP	楢原	3
0	武藤久	FP	山本	1
0	窪川	FP	奥田	1
18	(1)	PT	(3)	23

（審・横瀬 矢澤）

埼　玉 38（20—14／18—9）23 東　京

○…埼玉は首藤、宮下を中心としたロング、ポストシュートと多彩な攻撃で着々加点する。東京もよく走ったが埼玉の固いディフェンスに阻まれ、38—23と大差がついた。（横瀬）

得	〔東京〕		〔埼玉〕	得
0	中村	GK	岡部	0
0	北川	GK	矢内	0
4	田畑	FP	松岡	9
0	大谷	FP	大和田	2
7	近藤	FP	武田	5
0	高橋	FP	首藤	5
2	峰尾	FP	中田	2
2	福永	FP	宮下	10
0	田村	FP	越迫	0
3	鈴木	FP	菅田	4
0	山田	FP	大野	1
5	郡司	FP	星野	0
23	(3)	PT	(0)	38

（審・笠井 楡井）

▼3位決定戦

東　京 32（13—14／15—14／3—0／1—3）31 山　梨

○…きめ細かなコンビプレーの東京ときびきびした速攻主体の山梨は、一歩も譲らない1点を争う展開を続け、残り10秒山梨が追いつき延長に入る。延長に入るや、東京はセットプレーで得点をあげすがる山梨をふり切った。
素晴しい3位決定戦であった。（北井）

得	〔山梨〕		〔東京〕	得
0	菊島功	GK	中村	0
0	辻	GK	北川	0
4	武藤寛	FP	田畑	3
4	関口	FP	大谷	0
3	古屋	FP	近藤	5
0	佐藤	FP	高橋	0
7	中沢	FP	峰尾	0
5	菊島裕	FP	福永	3
0	広瀬	FP	田村	0
8	朝生	FP	鈴木	6
0	武藤久	FP	山田	3
0	窪川	FP	郡司	12
31	(3)	PT	(4)	32

（審・菅野 半田）

▼決勝

埼　玉 23（15—8／8—10）18 広　島

○…開始より18分までは1点を競う展開となったが、広島は酒巻、志賀の得点で2点リードし、その後両チーム共得点したが、広島が2点リードのまま前半を終了した。後半に入ると埼玉ペースで、5分過ぎには越迫の速攻、宮下、首藤のスカイプレーでリードした。
一方広島は、得点チャンスがあったが、相手側GKの活躍で得点することができずに終った。（水越）

得	〔広島〕		〔埼玉〕	得
0	大城	GK	岡部	0
0	井藤	GK	矢内	0
0	河原	FP	松岡	3
3	生駒	FP	大和田	2
5	玉村	FP	武田	2
3	酒巻	FP	首藤	11
1	志賀	FP	中田	0
0	中川	FP	宮下	3
0	内田	FP	越迫	1
3	楢原	FP	菅田	1
1	山本	FP	大野	0
2	奥田	FP	星野	0
18	(1)	PT	(4)	23

（審・千野 手塚）

成年女子

三重（ジャスコ）が優勝

▼1回戦

石　川 19（9—9／9—9／0—0／1—0）18 兵　庫
（北国銀行）　（風見鶏ク）

○…兵庫GKの好プレーに石川は再三のチャンスを得点に結びつけられず、9—9の同点で前半を終了した。後半に入っても追いつ追われつのゲーム展開となり、勝負は延長に持ちこされた。タイムアップ直前石川が速攻で得点し、ゲームを終了した。（笠井）

得	〔兵庫〕		〔石川〕	得
0	村山	GK	辻	0
0	中谷	GK	川北	0
0	坂本	FP	中川	2
2	畑	FP	林	3
3	渡部	FP	丹後	0
8	上水流	FP	中嶋	5
3	尾上	FP	松下	4
2	呉田	FP	荒	1
0	和田	FP	和田	0
0	奥坂	FP	高木	4
0	藤井	FP	北川	0
0	酒井	FP	川崎	0
18	(1)	PT	(2)	19

（審・稲生 内記）

千　葉 24（11—10／13—6）16 青　森
（千葉ク）　（全青森）

○…立ち上がりから千葉が速攻などで優位に立ち、4—0と好スタートを切ったが、途中ミスが出て青森が追い上げ、13—6で折り返す。後半も千葉が着々と加点、一方的な試合になった。（稲生）

得	〔青森〕		〔千葉〕	得
0	藤川	GK	田中	0
0	保田	GK	天野	0
4	小笠原	FP	山田	6
0	吉崎	FP	高橋	4
6	長谷川	FP	松川	3
1	山田	FP	海老原	2
0	船水	FP	桑代	2
0	近藤	FP	小林	1
3	中村	FP	杉本	2
2	坂本	FP	山野	3
0	中島	FP	大森	0
0	熊谷	FP	石塚	1
16	(1)	PT	(3)	24

（審・笠井 楡井）

新潟29（16−5 13−11）16徳島
（新潟江南OG）（池田ク）

○…前半5分過ぎ頃から新潟の速攻が決まり出した。一方、徳島はセットプレーを中心に攻撃するが、リズムが合わず、ミスが目立ったゲームで、新潟のワンサイドゲームとなった。（楡井）

得	〔新潟〕		〔徳島〕	得
0	早川	GK	加藤	0
0	堀	GK	宇埜	0
0	落田	FP	長尾	1
4	中村	FP	新久保	6
0	円山	FP	東岡	1
3	坂内	FP	高井	0
0	上野	FP	川島	6
4	坂井	FP	床西	2
9	藤塚	FP	川並	0
2	川口	FP	中岡	0
2	河村	FP	藤井	0
5	清水	FP	西峰	0
29	(0)	PT	(0)	16

（審・稲生 内記）

神奈川19（12−6 7−8）14愛媛
（全神奈川）（みなみク）

○…神奈川は早い動きで愛媛ディフェンスをゆさぶり着々と加点、一方愛媛はイージーなパスミスが重なり、自らチャンスをつぶす結果となり、前半12−6と神奈川リードで終了。後半に入り愛媛は攻守のリズムを取り戻し反撃に転じたが、神奈川も要所をよく守り、前半の大量リードを守り切り、19−14で神奈川が勝利を収めた。（内田）

得	〔神奈川〕		〔愛媛〕	得
0	山中	GK	藤井	0
0	松本	GK	関野	0
0	貝塚	FP	楠橋	0
2	土屋	FP	東	0
7	山口	FP	塩崎	0
3	野島	FP	河上	0
1	加藤	FP	田中	7
0	稲田	FP	吉本	5
4	野見山	FP	白石	1
1	大久保	FP	中山	1
1	太刀川	FP	大館	0
0	楢本	FP	岸下	0
19	(2)	PT	(2)	14

（審・市瀬 代永）

福岡32（19−4 13−7）11秋田
（FCC）（大農OG）

○…福岡のスピードのあるパスワークに秋田のディフェンスが守り切れず、また攻撃もミスが多く一方的なゲーム展開となる。後半になってもペースは変わらず、福岡の好プレーが目立ち、秋田・佐藤輝の攻守にわたる頑張りがあったが、総合力で上回る福岡の大勝に終った。（市瀬）

得	〔福岡〕		〔秋田〕	得
0	上野	GK	大山	0
0	緒方	GK	佐々木	0
3	川波	FP	高田	2
11	松田	FP	三浦	0
1	森川	FP	鈴木	0
6	藪田	FP	佐藤輝	0
4	妹川	FP	金子	0
0	宮島	FP	進藤	0
5	田中	FP	後藤	1
1	山田	FP	伊藤	3
0	白木	FP	佐藤由	0
1	横瀬	FP	照井	5
32	(3)	PT	(1)	11

（審・内田 高野）

佐賀21（10−4 11−7）11北海道
（神埼ク）（翔星会）

○…前半、北海道のディフェンスの弱さを突きセットオフェンスで得点を重ねる。

一方、北海道は攻守に移るたびにミスを続出し、10−4と佐賀のリードで前半終了。

後半、北海道は佐賀・羽立に対しマンツーマンディフェンスを取り反撃したが、佐賀の速攻が勝った。（高野）

得	〔佐賀〕		〔北海道〕	得
0	中村	GK	中沢	0
0	早田	GK		
3	羽立節	FP	豊岡	2
8	江島	FP	遠藤	0
0	羽立美	FP	小笠原	0
2	中嶋	FP	斉藤	0
8	香月	FP	山本	3
0	迎	FP	川上	0
0	星子	FP	麻野	1
0	伊東	FP	戸井	5
0	森山	FP	吉田	0
0	江頭	FP	三宮	0
21	(3)	PT	(0)	11

（審・市瀬 代永）

群馬30（16−8 14−17）25山口
（群馬教員）（徳山ク）

○…前半は群馬ペースの展開で確実にシュートチャンスを生かし点差を広げていった。山口も後半に入るとペースをつかみよく追い上げたが、及ばず、群馬の勝利に終ったが、好ゲームであった。（代永）

得	〔群馬〕		〔山口〕	得
0	大工原	GK	通山	0
0	五十嵐	GK	野村	0
1	石坂	FP	伊ヶ崎	0
0	鈴木	FP	三崎	3
2	武田	FP	由宇	0
0	横山	FP	是枝	10
13	鈴木	FP	松出	8
7	田島	FP	徳原	0
5	荒瀬	FP	福田	0
0	大川	FP	吉岡	3
2	桐原	FP	堀田	1
0	黛	FP	五嶋	0
30	(5)	PT	(1)	25

（審・内田 高野）

長崎24（12−4 12−7）11鳥取
（長崎ク）（境港ク）

○…両チーム共スピードのない試合展開だった。長崎は塩津のロングシュートを中心にサイドシュートを巧く決めるなどして前半15分過ぎには大差をつけ試合を決めた。鳥取は、GK渡部の好守にもかかわらずパスミス、体力不足などが目立ち、試合の主導権を長崎に譲った。（藤田）

得	〔長崎〕		〔鳥取〕	得
0	池下	GK	梶原	0
0	宮崎	GK	渡辺	0
1	豊本	FP	古賀	0
0	渡辺	FP	角	2
2	大隈	FP	松永	0
4	中田	FP	三谷	3
3	塩津	FP	前川	1
2	松永	FP	阿部	4
2	吉原	FP	俵	0
5	藤山	FP	高島	1
4	石井	FP	永井	0
1	貞島	FP	神	0
24	(1)	PT	(2)	11

（審・山下 浜野）

奈良24（10−8 14−5）13香川
（わかくさク）（選抜）

○…立ち上がり香川ペースで進行したが、10分過ぎからミスが目立ち奈良に速攻を許した。脚力に勝る奈良の逆転勝ち。（山下）

得	〔奈良〕		〔香川〕	得
0	中谷	GK	寒川	0
0	森川	GK	河村	0
1	杉岡	FP	横井	2
2	辰己	FP	原	2
2	福本	FP	池田	0
1	姉崎	FP	佐伯	1
0	尼崎	FP	下野	4
4	藤江	FP	山下	0
1	奥田	FP	玉川	0
5	野村	FP	川田	1
8	松崎	FP	中野	1
0	藪中	FP	原田	2
24	(3)	PT	(3)	13

（審・小池 藤田）

和歌山18（7−7 11−7）14島根
（県和商ク）（松江女高ク）

○…両チーム共立ち上がりからミスが目立ち雑なゲームとなったが、両者互角のゲーム。得点はロングシュートが目立つ。

後半、ジリジリと和歌山が相手のミスをつき追撃を許さなかった。（小池）

	〔島根〕	得	〔和歌山〕	得
GK	狩野	0	原田起	0
GK	木下	0	浅田	0
FP	加茂	3	山本	7
FP	棚橋	3	嶋万	5
FP	長沢	1	岩垣	1
FP	稲田	4	高垣	1
FP	都志見	0	熊郷	0
FP	奥田	0	栗栖	2
FP	花田	0	新家	0
FP	仁島	1	竹内	1
FP	安達	0	畑山	1
FP	江角	2	原田由	0
		14		18
PT		(1)		(1)

（審・山下、浜野）

富　山 25 〔7—4 18—6〕 10 岐　阜
（全富山）（腕満会）

○…富山、岐阜両チーム共に雑なプレーが目立ち得点につながらなかった。特に岐阜のラフプレーで警告、退場者が続出、その間に富山が得点を重ね、一方的な試合となった。富山GK槍谷のキーピングが光っていた。（浜野）

	〔岐阜〕	得	〔富山〕	得
GK	佐藤	0	北山	0
GK	竹内	0	槍谷	0
FP	安藤	2	田中	9
FP	岡田	0	網	3
FP	小野島	3	円戸	5
FP	鈴木	0	飯山	1
FP	平光	0	中村	1
FP	片桐	3	中橋	0
FP	桂川	0	道渕	0
FP	河合	2	谷内	1
FP	中村	0	鍛治	5
FP	中井	0	中井	0
		10		25
PT		(2)		(8)

（審・小池、藤田）

福　島 34 〔15—9 19—9〕 18 長　野
（ムネカタ）（小商ク）

○…立ち上がり長野が原田のカットインで先行。福島も20分過ぎから攻撃がかみ合い、15—9とリードして前半を終了。後半、福島は前半同様速攻で得点をあげるが、ミスが多く長野を離し切れない。しかし、15分過ぎから足の止まった長野に速攻を重ね、20分過ぎには28—17と勝負を決めた。（宮沢）

	〔長野〕	得	〔福島〕	得
GK	駒津	0	遠藤	0
GK	花岡	0	我妻	0
FP	古沢	0	藤谷	4
FP	佐藤	7	佐藤	9
FP	山崎	0	吉田	4
FP	小川	1	小林	0
FP	原田	3	海野	0
FP	丸橋	6	酒井	4
FP	柳沢	0	和知	0
FP	武田	0	皆川	4
FP	秦	1	太田	8
FP	今井	0	伊藤	1
		18		34
PT		(0)		(5)

（審・横瀬、矢澤）

茨　城 37 〔19—5 18—6〕 11 大　分
（日本ビクター）（大分東シニヤーク）

○…立ち上がり。茨城は1分間に連続3得点とスムーズな流れに乗った。これに対して、大分は茨城の高さのディフェンスに攻めあぐみ前半を終る。後半も同じような展開で進んだ。大分はどうしても茨城の〝高い壁〟が破れず涙を飲んだ。（不明）

	〔大分〕	得	〔茨城〕	得
GK	都	0	渡辺	0
GK	中川	0	小口	0
FP	佐々木	4	武藤	3
FP	芦刈	0	長田	7
FP	竹下	0	枝川	3
FP	三代	1	下條	5
FP	木下	1	平松	0
FP	穴身	1	根本	6
FP	白井	0	太田	5
FP	矢田	1	工藤	3
FP	紀野	1	松井	1
FP	宮田	2	永岡	4
		11		37
PT		(2)		(5)

（審・斉藤、宮沢）

滋　賀 31 〔15—6 16—7〕 13 山　形
（滋賀ク）（べにばなク）

○…双方ミスの目立った立ち上がりだったが、試合のペースをつかんだのは、地力に勝る滋賀の方だった。パスカットからの速攻、カットイン等々、常に自分たちのペースで試合を進めた。一方山形は、得点チャンスを作りながらシュートその他でミスが目立ち。最後まで力を出し切れずに終った。（斉藤）

	〔山形〕	得	〔滋賀〕	得
GK	高橋	0	小西	0
GK	佐川	0	北川	0
FP	小林	1	今井	11
FP	漆山	0	藤本	7
FP	村川	4	貫名	8
FP	鈴木	0	西河	2
FP	岡崎	2	松崎	1
FP	村上	4	西谷	0
FP	清水	0	辰巳	0
FP	今野	1	松宮	0
FP	佐藤	0	島田	1
FP	内田	1	中西	1
		13		31
PT		(0)		(1)

（審・矢澤、横瀬）

広　島 24 〔12—4 12—5〕 9 高　知
（広島ク）（高知ク）

○…同じようなタイプのチーム。わずかながら広島のシュート力と走りが勝り、前半に12—4と広島リードで終了。後半も同じような展開で、両チーム共チャンスは同じぐらいあったが、シュート力に勝る広島が着実に加点して点差を開いた。（横瀬）

	〔高知〕	得	〔広島〕	得
GK	西山	0	永岡	0
GK	松下	0	水木	0
FP	中越	0	山田	1
FP	田元	0	本西	7
FP	伊賀	0	森	0
FP	大崎	1	波多	0
FP	井上	0	河野	4
FP	松崎	2	藤岡	2
FP	久家	1	高松	1
FP	東	3	中田	6
FP	平野	2	田中	3
FP			吉中	0
		9		24
PT		(0)		(2)

（審・宮沢、斉藤）

▼2回戦

熊　本 30 〔12—3 18—7〕 10 石　川
（立石電機山鹿）

○…熊本は早い攻撃により石川のディフェンスミスを誘い着実に得点を重ねる。一方石川は、熊本の固いディフェンスのためになかなか得点ができず、熊本の一方的ゲーム展開で終る。（平井）

	〔石川〕	得	〔熊本〕	得
GK	辻	0	荒木	0
GK	川北	0	岡本	0
FP	中川	0	山口	3
FP	林	0	近藤	3
FP	丹後	0	江口	3
FP	中嶋	3	岩村	1
FP	松下	2	福家	1
FP	荒	1	野嶋	6
FP	和田	1	山内	6
FP	高木	3	横田	0
FP	北川	0	武津	3
FP	川崎	0	中山	4
		10		30
PT		(1)		(2)

（審・小池、藤田）

東　京 25 〔11—4 15—6〕 10 岡　山
（東京重機）（全岡山）

○…動きの早い東京は、市川、古谷を中心によくまとまり、速攻による得点を重ね、終始岡山をリードして試合を終了した。岡山は白石、野瀬の活躍が目立ったが、東京の力量の前に屈した。（小池）

	〔岡山〕	得	〔東京〕	得
GK	宮崎	0	石井	0
GK	樋口	0	大角	0
FP	白石	1	山崎	2
FP	大塚	1	市川	1
FP	佃	1	佐藤	4
FP	宮川	0	嶋田	0
FP	長尾	1	藤井	1
FP	原田	1	伊原	1
FP	奥原	0	古谷	10
FP	渡辺	1	大林	5
FP	仲井	0	矢田	1
FP	野瀬	4	星	0
		10		25
PT		(0)		(0)

（審・平井、佐野）

鹿児島 27 〔15—9 12—7〕 16 千　葉
（ソニー国分）

○…開始10分、教員チームの千葉が、サイド、ロングシュートで5—4とリード。しかし、日本リーグの意地を見せた鹿児島は、速攻、ロングシュートなど着実に得点を重ね、26—17で千葉を下した。（佐野）

	〔千葉〕	得	〔鹿児島〕	得
GK	田中	0	阿多石	0
GK	天野	0	江崎	0
FP	山田	5	斜木	0
FP	高橋	3	光瀬	1
FP	松川	4	宮原	3
FP	海老原	0	楠本	0
FP	桑代	1	久木田	2
FP	小林	1	馬渡	7
FP	杉本	2	野元	3
FP	山野	0	東郷	0
FP	大森	0	山口	4
FP	石塚	0	藤元	7
		16		27
PT		(3)		(3)

（審・小池、藤田）

愛　知 39 〔20—5 19—4〕 9 新　潟
（ブラザー工業）

○…愛知の厚いディフェンスに阻まれパスが思うようにつながらない新潟は、再三のパスミスから逆速攻を許し、前半10分過ぎには大差となる。その後も新潟は得点するチャンスをつくることができ

	〔新潟〕	得	〔愛知〕	得
GK	早川	0	畑添	0
GK	堀	0	大藪	0
FP	落田	0	荒木	4
FP	中村	2	小池	2
FP	円山	0	末永	3
FP	坂内	0	中村	0
FP	上野	0	道上	5
FP	坂井	0	太田	5
FP	藤塚	7	久保田	8
FP	川口	0	松尾	0
FP	河村	0	坂倉	7
FP	清水	0	大久保	5
		9		39
PT		(3)		(2)

（審・平井、佐野）

ず、愛知の一方的な試合展開のまま終了。（藤田）

京　都 26（17—10 9—4）14 神奈川
（京都ク）

○…速さと高さを生かした京都は、立ち上がりから着実に得点していった。これに対して神奈川はセットプレーに苦しみながらも速いパス回しの攻撃でこれを追ったが、前半17—10と京都リードで終了した。後半も京都ペースで流れ26—14でゲームが終了した。（笠井）

	〔京都〕	得	〔神奈川〕	得
GK	石井	0	山中	0
	山本	0	松本	0
FP	秋田	0	貝塚	0
	矢野	5	土屋	4
	多田	4	山口	5
	山戸	2	野島	2
	花田	0	加藤	0
	藤田	8	稲田	0
	渡辺	0	野見山	2
	谷坂	0	大久保	1
	中尾	3	太刀川	0
	小橋	4	楢本	0
PT	26	(3)	14	(1)

（審・酒井・浜田）

福　岡 27（16—2 11—8）10 福　井
（全福井）

○…前半、福岡はGK上野の好守と速攻からの得点で福井を寄せつけないゲーム展開となった。後半に入って少し元気の出てきた福井だったが、福岡は着実に得点を重ね3回戦に進出した。（浜田）

	〔福岡〕	得	〔福井〕	得
GK	上野	0	田中	0
	緒方	0	深山	0
FP	川波	5	高野	3
	松田	6	朝賀	0
	森川	0	門尾	2
	藪田	1	堂後	0
	妹川	5	前田	3
	宮島	1	石本	0
	田中	4	駒野	1
	山田	0	松田	1
	白木	1	嵐山	0
	横瀬	4	藤田	0
PT	27	(1)	10	(1)

（審・笠井・楡井）

佐　賀 23（9—10 14—7）17 宮　城
（聖和ク）

○…前半立ち上がり佐賀は速攻で得点を重ね、セット攻撃（ポスト）を中心に展開しようとしたが、宮城GKの好守に阻まれミスが目立つようになった。一方宮城は、佐賀のミスから着実に得点を入れシーソーゲームとなった。後半、シーソーゲームの続く中、佐賀は相手のミスから速攻につなぎ加点した。（楡井）

	〔佐賀〕	得	〔宮城〕	得
GK	中村	0	森田	0
	早田	0	松山	0
FP	羽立節	4	加賀谷	1
	江島	7	峰谷	1
	羽立美	1	早坂	0
	中島	2	鈴木美	9
	香月	6	今野	0
	迎	0	大島	5
	星子	0	佐藤	0
	伊東	3	鈴木朋	1
	森山	0	中川	0
	江頭	0	葛巻	0
PT	23	(5)	17	(2)

（審・酒井・浜田）

三　重 36（18—9 18—8）17 群　馬
（ジャスコ）

○…前半の20分までは両チーム共一進一退のゲーム展開となった。しかし、20分過ぎから群馬のシュートが決まらなくなり、三重の速攻で得点を重ね9点差で折り返した。後半に入ると、三重が実業団のスピードプレーで群馬を寄せつけなかった。（浜田）

	〔三重〕	得	〔群馬〕	得
GK	木村	0	大工原	0
	小深田	0	五十嵐	0
FP	寺沢	4	石坂	1
	石田裕	4	鈴木真	0
	近藤	7	武田	2
	鷲野	2	横山	0
	服部	8	鈴木智	8
	常石	2	田島	2
	高岡	0	荒瀬	4
	石田真	1	大川	0
	寺西	2	桐原	0
	池田	6	黛	0
PT	36	(5)	17	(2)

（審・笠井・楡井）

埼　玉 24（12—3 12—5）8 長　崎
（大崎電気）

○…立ち上がり石井のロングで先行した埼玉が、GK梅野を中心とした固い守りから速攻を重ね、15分過ぎには9—1と主導権を握った。その後攻守にミスが目立ち始めた埼玉に対し、長崎も藤山を中心に攻めこむが今ひとつ決定力に欠け、12—3で前半を終了。後半、長崎はチーム全員で積極的に攻撃するが、ここ一番PTをはずすなど埼玉を崩しきれず、埼玉は速攻、ロングと攻撃の手をゆるめず、20分過ぎには21—7と勝負を決めた。（宮沢）

	〔埼玉〕	得	〔長崎〕	得
GK	大西	0	池下	0
	梅野	0	宮崎	0
FP	時実	2	豊本	0
	松尾	0	渡辺	0
	塩谷	0	大隈	1
	石井	4	中田	1
	沖山	5	塩津	0
	徳渕	1	松永	1
	江口	9	吉原	0
	須永	0	藤山	4
	前川	0	石井	0
	鈴木	3	貞島	1
PT	24	(3)	8	(0)

（審・山下・浜野）

岩　手 18（6—5 6—7 3—0 3—1）13 奈　良
（岩手桐花ク）

○…立ち上がり奈良が多数のシュートを放ったが、岩手GK梅原の好守にあい得手にならず、岩手もこれといった得点源がなく両チーム共苦しい試合となった。後半、奈良・松崎がよく頑張り4連勝得点、岩手・堀米も頑張って延長戦に。延長は堀米の得点で岩手が勝利を握った。（浜野）

	〔岩手〕	得	〔奈良〕	得
GK	斉藤	0	中谷	0
	梅原	0	森川	0
FP	松田	1	杉岡	0
	晴山	0	辰己	1
	大志田	4	福本	2
	堀米	8	姉崎	0
	工藤里	0	尼崎	0
	佐藤	0	藤江	4
	工藤真	2	奥田	0
	川井	1	野村	0
	三浦	1	松崎	6
	柏崎	1	藪中	0
PT	18	(2)	13	(0)

（審・斉藤・宮沢）

山　梨 36（17—4 19—6）10 和歌山
（シャトレーゼ）

○…地元の登場とあって大観衆の集まる中、その観衆に緊張したのかやや固さの見えた山梨だったが、5分過ぎからは自分たちのペースで進め、17—14で前半を終えた。後半の立ち上がり、和歌山は

	〔山梨〕	得	〔和歌山〕	得
GK	丸山	0	原田起	0
	早野	0	浅田	0
FP	渡辺	6	山本	7
	嶋崎	5	嶋	1
	海道	6	岩垣	0
	松沢	4	高垣	1
	春山	5	熊ノ郷	0
	小林	0	栗栖	1
	百瀬	6	新家	0
	成島	1	竹内	0
	武田	2	畑山	0
	平田	1	原田由	0
PT	36	(5)	10	(0)

（審・山下・浜野）

ポストプレー、カットインなどで先行したが、やはり総合力に勝る山梨の圧勝となった。（斉藤）

富山 21（11－8、10－9）17 沖縄（レキオク）

○…1点を争う混戦ゲームから富山が一歩リード。後半、沖縄もインターセプトから反撃に転じながらも、ラインクロスなど大事なところでのミスが目立ち、逆に富山の巧いサイド攻撃で逃げ切られた。（山下）

	〔沖縄〕	得
GK	砂辺	0
GK	伊是名	0
FP	平良	4
FP	真栄城	4
FP	山城	0
FP	嵩原	4
FP	具志堅	2
FP	下里	0
FP	米須	0
FP	山本	2
FP	島袋	0
FP	石川	1
PT	(6)	17

（審・斉藤 宮澤）

	〔富山〕	得
GK	北山	0
GK	樽谷	0
FP	田中	4
FP	網	3
FP	丹戸	3
FP	飯山	1
FP	中村	5
FP	中橋	1
FP	道渕	0
FP	谷内	1
FP	鍛治	3
FP	中井	0
PT	(2)	21

大阪（大和銀行）25（10－5、15－5）10 福島

○…身長差に勝る大阪のディフェンスの壁は、福島のロングを完封し、ポスト、カットインを警戒してのディフェンスは、相手のミスを誘った。走りの良い両チームも一つのミスが加点になった。攻撃に変化のある大阪は、前半でダブルスコアと差をつけ、後半に入ってもポストやカットインで点差を離し大勝した。（千野）

	〔福島〕	得
GK	遠藤	0
GK	我妻	0
FP	藤谷	0
FP	佐藤	1
FP	吉田	2
FP	小林	6
FP	酒井	0
FP	和知	0
FP	皆川	1
FP	太田	0
FP	伊藤	0
PT	(0)	10

（審・内田 高野）

	〔大阪〕	得
GK	高浜	0
GK	坂口	0
FP	丸田	4
FP	上西	1
FP	赤瀬	4
FP	佐々木	4
FP	植田	2
FP	天谷	1
FP	小池	4
FP	襲川	3
FP	上村	2
FP	藤本	0
PT	(3)	25

茨城 28（14－1、14－2）3 静岡（静岡城北ク）

○…実業団対クラブチームの一戦はスポーツカーと軽自動車を比べるかのごとくスピードの差はどうにもならず、茨城の一方的なゲームであった。しかし、静岡も最後まであきらめずによく戦った。（内田）

	〔静岡〕	得
GK	森	0
GK	大坪	0
FP	久保田明	0
FP	加藤	0
FP	芥川	0
FP	林	0
FP	吉永	0
FP	久保田諭	0
FP	種本	1
FP	大竹	0
FP	望月	0
FP	出木	2
PT	(0)	3

（審・千野 手塚）

	〔茨城〕	得
GK	渡辺	0
GK	小口	0
FP	武藤	3
FP	長田	13
FP	枝川	1
FP	下條	1
FP	平松	1
FP	根本	4
FP	太田	5
FP	工藤	0
FP	松井	0
FP	永岡	0
PT	(6)	28

滋賀 30（15－4、15－4）8 宮崎（全宮崎）

○…走力に勝る滋賀は、開始早々から速いパスワークと動きの良いコンビプレーで前半15－4とリード。後半も宮崎の単発的シュートを速攻に結びつけ加点し点差を広げた。（手塚）

	〔宮崎〕	得
GK	甲斐美	0
GK	内美	0
FP	赤木	2
FP	持原	0
FP	甲斐千	0
FP	柳衛	4
FP	上西	0
FP	白川	0
FP	湯浅	0
FP	大崎	0
FP	和田	2
FP	鈴木	0
PT	(2)	8

（審・内田 高野）

	〔滋賀〕	得
GK	小西	0
GK	北川	0
FP	今井	8
FP	藤本	7
FP	貫名	1
FP	西河	4
FP	松崎	2
FP	西本	0
FP	辰己	2
FP	松宮	2
FP	島田	2
FP	中田	2
PT	(0)	30

栃木（日立栃木）38（18－6、20－3）9 広島

○…栃木は速い攻めから着々と加点。一方の広島はポストからのシュートで反撃するも18－6と栃木リードで前半終了。後半に入っても栃木のスピードは衰えず大量得点、広島もよく健闘したが、日本リーグ勢の壁は厚かった。（内田）

	〔広島〕	得
GK	永岡	0
GK	水木	0
FP	山田	1
FP	本西	0
FP	森	0
FP	波多	1
FP	河野	0
FP	藤岡	3
FP	高松	1
FP	中田	3
FP	田中	0
FP	吉中	0
PT	(1)	9

（審・千野 手塚）

	〔栃木〕	得
GK	葛生	0
GK	岡本	0
FP	手打	6
FP	前田	7
FP	清水	3
FP	井沢	7
FP	吉田	4
FP	山岸	5
FP	菅原	1
FP	中村	1
FP	尾苗	3
FP	石毛	1
PT	(1)	38

▼3回戦

熊本 24（15－6、9－9）15 東京

○…前半、熊本の固いディフェンスに東京が攻め切れず、前半15－6で熊本の一方的な試合になった。後半東京もよく健闘したが、熊本の壁は破れなかった。（浜野）

	〔東京〕	得
GK	石井	0
GK	大角	0
FP	山崎	1
FP	市川	5
FP	佐藤	3
FP	嶋田	0
FP	藤井	0
FP	伊原	0
FP	古谷	3
FP	大林	2
FP	矢田	1
FP	星	0
PT	(2)	15

（審・千野 手塚）

	〔熊本〕	得
GK	荒木	0
GK	岡本	0
FP	山口	3
FP	近藤	1
FP	江口	0
FP	岩村	3
FP	福家	0
FP	野嶋	9
FP	山内	3
FP	横田	0
FP	武津	4
FP	中山	1
PT	(5)	24

愛知 28（11－8、17－5）13 鹿児島

○…立ち上がり、愛知がセット、速攻で着実に得点、一方的な展開になるかと思われたが、10分過ぎから鹿児島も追い上げ、11－8で前半を終了。後半は愛知が実力を発揮、予想通りの試合結果となった。（稲生）

	〔鹿児島〕	得
GK	阿多石	0
GK	江崎	0
FP	斜木	0
FP	光瀬	0
FP	宮原	2
FP	楠本	0
FP	久木田	1
FP	馬渡	2
FP	崎元	1
FP	東郷	0
FP	山口	3
FP	藤元	4
PT	(2)	13

（審・斉藤 宮沢）

	〔愛知〕	得
GK	畑添	0
GK	大薮	0
FP	荒木	1
FP	小池	5
FP	末永	0
FP	中村	8
FP	道上	1
FP	太田	2
FP	久保田	6
FP	松尾	0
FP	坂倉	3
FP	大久保	2
PT	(3)	28

京都 25（12－11、8－9、2－2、3－1）23 福岡

○…最初の流れは京都ムードで展開されたが、福岡も徐々に動きが良くなり、後半10分頃同点とした。その後互いにシーソーゲームの連続。福岡はよく走りチャンスをつかむが得点できず、延長での勝負となった。延長はペナルティーの成功率で勝負が決まった。（半田）

	〔福岡〕	得
GK	上野	0
GK	緒方	0
FP	川波	1
FP	松田	9
FP	森川	0
FP	薮田	4
FP	林川	1
FP	宮島	3
FP	田中	2
FP	山田	0
FP	白木	0
FP	横瀬	3
PT	(3)	23

（審・市瀬 代永）

	〔京都〕	得
GK	石井	0
GK	山本	0
FP	秋田	0
FP	矢野	4
FP	多田	0
FP	山戸	6
FP	花田	0
FP	藤田	7
FP	渡辺	0
FP	谷坂	0
FP	中尾	4
FP	小橋	4
PT	(6)	25

三重 28（14－7、14－1）8 佐賀

○…立ち上がりから三重が速攻を展開する。それに対し佐賀はサイドよりシュートを決めるが、三重の確実な守りになかなか得点できない。後半も三重が全員でよく守り、確実に加点、佐賀を突き放した。（小池）

	〔佐賀〕	得
GK	中村	0
GK	早田	0
FP	羽立節	3
FP	江島	3
FP	羽立美	0
FP	中島	1
FP	香月	1
FP	迎	0
FP	星子	0
FP	伊東	0
FP	森山	0
FP	江頭	0
PT	(0)	8

（審・平井 佐野）

	〔三重〕	得
GK	木村	0
GK	小深田	0
FP	寺沢	2
FP	石田裕	1
FP	近藤	2
FP	鷲野	0
FP	服部	4
FP	常石	5
FP	高岡	7
FP	石田真	0
FP	寺西	0
FP	池田	7
PT	(4)	28

埼玉 20（9－6、11－5）11 岩手

○…埼玉の先行で始まったが、岩手GKの好守からゲームは盛り上がった。一時は同点に追いついたが、時間の経過と共に練習量豊かな埼玉の走り、技術の前に点差がつき、大差で終った。（千野）

〔岩手〕	得
斉藤	0
梅原	0
松田	0
晴山	0
大志田	1
堀米	3
工藤里	1
佐藤	4
工藤真	1
川井	0
三浦	1
柏崎	0

GK　FP（審・山下 浜野）

得	〔埼玉〕
0	大西
0	梅野
3	時実
2	松尾
0	塩谷
7	石井
6	沖山
1	徳渕
1	江口
0	須永
0	前川
0	鈴木

11　(1)　PT　(3)　20

山梨 37（16－2 21－4）6 富山

○…立ち上がりPTで得点した山梨は、ロングシュート、ポストプレー、速攻とバランスのとれた攻撃で着実に得点を重ねた。一方富山は前半5分にPTで得点したが、得点チャンスを山梨GKの好守に阻まれ、良い攻撃をしながら残念な結果に終ってしまった。（斉藤）

〔富山〕	得
北山	0
樽谷	0
田中	0
網	1
丹戸	0
飯山	0
中村	1
中橋	2
道渕	0
谷内	0
鍛治	2
中井	0

GK　FP（審・稲生 内記）

得	〔山梨〕
0	丸山
0	星野
4	渡辺
6	嶋崎
4	海道
5	松沢
4	春山
3	小林
1	百瀬
3	成島
3	武田
4	平田

6　(1)　PT　(8)　37

茨城 20（9－8 11－7）15 大阪

○…両チーム共特色を生かしミスも少なく接戦の前半であったが、後半に入り茨城は武藤を中心にセットプレーを重ねた。これに対し大阪もサイドのシュートなどで対抗したが、相手のミスを巧く得点につなげた茨城が勝利をものにした。（市瀬）

〔大阪〕	得
高浜	0
坂口	0
丸田	1
上西	2
赤瀬	2
佐々木	6
植田	2
天谷	0
小池	0
袰川	1
上村	1
藤本	0

GK　FP（審・菅野 半田）

得	〔茨城〕
0	渡辺
0	小口
4	武藤
6	長田
0	枝川
4	下條
0	平松
4	根本
0	太田
2	工藤
0	松井
0	永岡

15　(1)　PT　(4)　20

栃木 35（19－3 16－5）8 滋賀

○…栃木がロング、ミドル、速攻、サイドシュートなど多彩な攻撃と堅実な守りで一方的に滋賀を下した。（佐野）

〔滋賀〕	得
小西	0
北川	0
今井	4
藤本	0
貫名	3
西河	1
松崎	0
西谷	0
辰己	0
松宮	0
島田	0
中西	0

GK　FP（審・小池 藤田）

得	〔栃木〕
0	葛生
0	岡本
7	手打
5	前田
3	清水
7	井沢
1	吉田
4	山岸
3	菅原
0	中村
2	尾苗
3	石毛

8　(1)　PT　(4)　35

▼準々決勝

愛知 17（6－8 11－6）14 熊本

○…立ち上がりから12分間2－2の同点。互いに得点源を見出せず、苦しい戦い。前半8－6と熊本のリードで折り返した。後半、熊本の逃げ切りかと思ったが、20分過ぎ熊本の退場者が相つぎ、愛知が逆転して勝利を得た。（浜野）

〔熊本〕	得
荒木	0
岡本	0
山口	2
近藤	2
江口	2
岩村	0
福家	0
野嶋	6
山内	1
横田	0
武津	1
中山	0

GK　FP（審・千野 手塚）

得	〔愛知〕
0	畑添
0	大薮
3	荒木
5	小池
0	末永
3	中村
0	道上
1	太田
3	久保田
0	松尾
0	坂倉
2	大久保

14　(3)　PT　(5)　17

三重 32（18－13 14－7）20 京都

○…三重は鷲野のサイド、ポストシュートなどで得点するが、京都も藤田のロングシュートなどで対抗、22分まで10－10の同点。その後動きの悪くなった京都に対し三重は速攻で6連続得点し、前半は18－13。後半は疲れの見える京都に対し三重が速攻を連発し、一方的に押し切った。（内記）

〔京都〕	得
石井	0
山本	0
秋田	0
矢野	2
多田	0
山戸	3
花田	0
藤田	7
渡辺	1
谷坂	1
中尾	1
小橋	5

GK　FP（審・斉藤 宮沢）

得	〔三重〕
0	木村
0	小深田
5	寺沢
4	石田裕
7	近藤
8	鷲野
4	服部
0	常石
4	高岡
0	石田真
0	寺西
0	池田

20　(6)　PT　(5)　32

山梨 18（5－9 13－8）17 埼玉

○…地元山梨のディフェンスでの動きにもう一つ詰めがなく、埼玉のロングをつづけて許し、前半9－5。後半に入るや、固さのとれた山梨はポストプレーを多用して追い上げ、1点を争う好ゲームを展開した。試合を最後まで盛り上げるプレーを随所に見せ山梨の勝利で終った。（手塚）

〔埼玉〕	得
大西	0
梅野	0
時実	0
松尾	1
塩谷	1
石井	9
沖山	4
徳渕	1
江口	1
須永	0
前川	0
鈴木	0

GK　FP（審・山下 浜野）

得	〔山梨〕
0	丸山
0	星野
0	渡辺
1	嶋崎
7	海道
2	松沢
4	春山
0	小林
2	百瀬
0	成島
1	武田
1	平田

17　(0)　PT　(4)　18

茨城 25（12－11 13－10）21 栃木

○…立ち上がり茨城が長田の活躍でリードを奪ったが、栃木も15分過ぎから速攻を重ね追い上げ、前半12－11。後半も茨城、栃木共にスピーディーな攻撃を展開、一進一退をくり返したが、20分過ぎからミスの目立つ栃木に対し茨城がサイド、速攻でリードを広げ、25－21で茨城が勝ち上がった。（宮沢）

〔栃木〕	得
葛生	0
岡本	0
手打	0
前田	8
清水	0
井沢	6
吉田	1
山岸	4
菅原	0
中村	0
尾苗	2
石毛	0

GK　FP（審・稲生 内記）

得	〔茨城〕
0	渡辺
0	小口
5	武藤
7	長田
1	枝川
4	下條
2	平松
2	根本
0	太田
4	工藤
0	松井
0	永岡

21　(7)　PT　(2)　25

▼準決勝

三重 22〔11—6, 11—13〕19 愛知

○…前半、三重の速攻とフォーメーションプレーが決まりリードする。後半、愛知に攻撃ミスがあり相手速攻を招いたが、15分過ぎから反撃し3点差まですが、その後は三重に押し切られた。（菅野）

〔愛知〕審・水越、上小沢

	〔愛知〕	得
GK	畑添	0
GK	大藪	0
FP	荒木	3
FP	小池	7
FP	末永	0
FP	中村	1
FP	道上	1
FP	太田	4
FP	久保田	3
FP	松尾	0
FP	坂倉	0
FP	大久保	0
PT	(4)	19

	〔三重〕	得
GK	木村	0
GK	小深田	0
FP	寺沢	5
FP	石田裕	3
FP	近藤	5
FP	鷲野	2
FP	服部	3
FP	常石	0
FP	高岡	0
FP	石田真	0
FP	寺西	0
FP	池田	4
PT	(3)	22

（審・水越、上小沢）

茨城 24〔11—9, 8—10, 2—0, 3—3〕22 山梨

○…全日本プレーヤーを中軸にカットイン、ロングを随所に見せる茨城に対し、山梨もGKの好守や走力とパスワークで加点、後半15分には逆転する健闘を見せた。その後、山梨のポストプレーが冴え、茨城もカットインで譲らず、19—19で延長に。延長開始2分、退場者を出した山梨を激しく攻めた茨城が、2点差で勝利を飾った。（千野）

	〔山梨〕	得
GK	丸山	0
GK	星野	0
FP	渡辺	0
FP	嶋崎	4
FP	海道	10
FP	松沢	2
FP	春山	1
FP	小林	0
FP	百瀬	3
FP	成島	0
FP	武田	1
FP	平田	1
PT	(5)	22

	〔茨城〕	得
GK	渡辺	0
GK	小口	0
FP	武藤	8
FP	長田	6
FP	枝川	2
FP	下條	3
FP	平松	0
FP	根本	5
FP	太田	0
FP	工藤	0
FP	松井	0
FP	永岡	0
PT	(0)	24

（審・上久保、北井）

▼3位決定戦

愛知 26〔9—12, 17—9〕21 山梨

○…地元の声援を受けた山梨は出足良く4点連取すれば、愛知も粘り4点連取、1点を争う攻防。山梨は細かなパスプレーからポスト、サイドで加点、12—9で折り返した。後半に入り、愛知の早い走りとクロスプレーにより11分同点に。以後走りに勝る愛知が連続加点、山梨の必死の追い上げもミスで自滅した。（千野）

	〔山梨〕	得
GK	丸山	0
GK	星野	0
FP	渡辺	1
FP	嶋崎	3
FP	海道	6
FP	松沢	5
FP	春山	3
FP	小林	0
FP	百瀬	0
FP	成島	0
FP	武田	2
FP	平田	1
PT	(4)	21

	〔愛知〕	得
GK	畑添	0
GK	大藪	0
FP	荒木	3
FP	小池	9
FP	末永	0
FP	中村	5
FP	道上	0
FP	太田	2
FP	久保田	4
FP	松尾	0
FP	坂倉	0
FP	大久保	3
PT	(1)	26

（審・上久保、北井）

▼決勝

三重 27〔19—9, 8—13〕22 茨城

○…ディフェンスの縦横のフットワークの良い三重を攻めあぐむ茨城、前半19—9と大差で折り返した。後半、両チームミスをついての速攻で得点、試合を盛り上げた。茨城は追い上げの大切な時に退場者を出したのが痛手となった。（手塚）

	〔茨城〕	得
GK	渡辺	0
GK	小口	0
FP	武藤	2
FP	長田	10
FP	枝川	1
FP	下條	2
FP	平松	0
FP	根本	4
FP	太田	2
FP	工藤	1
FP	松井	0
FP	永岡	0
PT	(6)	22

	〔三重〕	得
GK	木村	0
GK	小深田	0
FP	寺沢	9
FP	石田裕	4
FP	近藤	7
FP	鷲野	2
FP	服部	2
FP	常石	0
FP	高岡	0
FP	石田真	0
FP	寺西	0
FP	池田	3
PT	(4)	27

（審・水越、上小沢）

少年男子

福岡（久留米工大附高）が優勝

▼1回戦

大阪（選抜）21〔12—5, 9—9〕14 愛媛（選抜）

○…大阪は、落ち着いたパスさばきから高いロングシュートや1対1からのポストプレーなど多彩な攻撃を見せ、リードを奪う。一方愛媛は、コンビネーションが今一歩で、大阪の高いディフェンスとGKの好守を破れず、前半12—5と大阪が大きくリードを奪った。後半に入っても様相は変わらず、大阪の快勝に終った。（北井）

	〔愛媛〕	得
GK	大岡	0
GK	川村	0
FP	石川	3
FP	崎田	3
FP	河崎	1
FP	西内	0
FP	横田	0
FP	加地	0
FP	立花	4
FP	日野	3
FP	工藤	0
FP	和田	0
PT	(0)	14

	〔大阪〕	得
GK	中村	0
GK	福島	0
FP	古川	1
FP	井上	1
FP	鹿嶋	3
FP	平沼	3
FP	田中	4
FP	辻	0
FP	萩原	1
FP	伊勢	0
FP	鳥平	7
FP	山田	1
PT	(2)	21

（審・平井、佐野）

愛知（選抜）38〔10—13, 14—11, 2—1, 2—3, 6—0, 4—2〕30 富山（全富山）

○…相手のミスに乗じて富山が好スタートを切り、愛知もディフェンスを立て直し徐々に追い上げたが、後半に入り15分、愛知が同点に追いつき延長戦に。
第1延長は一進一退で決勝がつかず、第2延長で愛知に勝利の女神がほほえんだ。（酒井）

	〔富山〕	得
GK	布橋	0
GK	三浦	0
FP	広瀬	5
FP	杉沢	5
FP	土平	0
FP	大角	6
FP	藤井	0
FP	山崎	0
FP	椎山	0
FP	背戸	9
FP	磯辺	2
FP	岩崎	3
PT	(3)	30

	〔愛知〕	得
GK	沖野	0
GK	成瀬	0
FP	山田	7
FP	山下	8
FP	加藤	7
FP	丹羽	6
FP	小田	0
FP	安藤	0
FP	望月	6
FP	伊藤	0
FP	岩瀬	0
FP	平松	4
PT	(2)	38

（審・上久保、北井）

山口（選抜）24〔12—5, 12—5〕10 青森（全青森）

○…両チーム共に細かいプレーが続き、小さな反則のくり返しで

始まり、前半10分、3―2で山口がリード、その後山口は、ペナルティー、サイドシュート、速攻などで、得点を重ね24―10で青森を下した。（佐野）

得 0 0 0 3 1 1 2 2 0 0 0 1　10
〔青森〕与村谷家良崎越田館子内
浜刺浜坪
横西荒江横柏吹岡戸原山　(1)
GK　FP　（審・酒井　浜田）　PT
〔山口〕本塚戸谷波村村田田山間宮　(4)
木都
岡飯西藤難河上大岸片大宇
得 0 0 6 1 3 1 6 1 1 4 0 1　24

▼準々決勝

福　岡 33（17 16／7 5）12 大　阪
（久留米工大附高）

○…両チーム共緊張した立ち上がりで点数が入らない。しかし、堅いディフェンスを敷く福岡が先取点、以後ジリジリと点差を開いた。後半も流れは変わらず。大阪必死の反撃も福岡のGKの好守で実らず。福岡の堅いディフェンスと速攻の巧さが光った（矢澤）

得 0 0 0 0 4 0 3 0 0 0 5 0　12
〔大阪〕村島川上嶋沼中原坊平田
辻勢
中福古井鹿平田萩伊鳥山　(0)
GK　FP　（審・水越　上小沢）　PT
山崎田中吉山元田崎藤原尾　(4)
保
〔福岡〕福篠柴田弥中杉久川近孤高
得 0 0 0 6 5 3 2 3 10 1 2 1　33

山　梨 30（14 16／9 9）18 北海道
（選抜）　（選抜）

○…両チームローペースで立ち上がり、ミスが続いたが、山梨は小久保のサイドシュートをきっかけに5分で6―1と好スタートを切った。その後は、山梨はセット攻撃を確実に得点していき、一方北海道は佐久間のロングのみで単調になり、前半を16―9で終了した。後半は、北海道は木村を中心によく健闘したが、山梨が実力的に一歩リードしていた。（稲生）

得 0 0 0 2 0 2 1 6 0 0 2 5　18
〔北海道〕藤松内子本田川村本島部間
戸久
須小新猪亀山古木橋寺水佐　(0)
GK　FP　（審・横瀬　矢澤）　PT
〔山梨〕田土柳野瀬栖松林賀木保林　(2)
久
鶴白青細広中窪小浅青小竹
得 0 0 1 3 5 1 1 1 6 7 3 2　30

沖　縄 23（11 12／11 10）21 愛　知
（選抜）

○…愛知がロングシュートやサイドなどで先行したが、速攻やカットインで沖縄もペース取り戻し、前半は沖縄が2点リードで終了した。後半に入っても1点を争う好ゲームで、10分には愛知が逆に2点リードしたが、後半20分、速攻のペースをつかんだ沖縄が勝利した。（上小沢）

得 0 0 3 5 3 2 0 1 2 0 0 5　21
〔愛知〕野瀬田下藤羽田藤月藤瀬松
沖成山山加丹小安望伊岩平　(2)
GK　FP　（審・稲生　内記）　PT
〔沖縄〕良謝地井沢城田浜原念島根　(2)
宗
高我下嶺伊金長吉上知高仲
得 0 0 5 0 0 0 4 5 5 1 3 0　23

千　葉 23（11 12／8 5）13 山　口
（選抜）

○…両チーム共よく鍛えられたチームである。しかしながら、千葉の堅いディフェンスとGKの好守もあり11―5とリードして前半を終了。後半に入り、山口もよく粘り得点するも、千葉が攻守に勝り23―13で千葉が勝利をものにする。（横瀬）

得 0 0 4 1 2 0 3 1 0 2 0 0　13
〔山口〕本塚戸谷波村村田田山間宮
木都
岡飯西藤難河上大岸片大宇　(3)
GK　FP　（審・水越　上小沢）　PT
〔千葉〕田貫池川坂間山島入沢　(3)
榎
町島小宮有本横福坂永
得 0 0 3 4 2 2 2 0 7 2 1　23

▼準決勝

福　岡 24（13 11／11 8）19 山　梨

○…山梨はポストプレー、福岡は速攻という対照的な攻め合いで16分過ぎまで一進一退の好ゲームを展開したが、福岡が得意の速攻で加点し、前半を13―8とリード。後半に入り山梨もコンビプレーが見事に決まり出し、10分過ぎには2点差まで詰め寄ったが、福岡の高いディフェンスを破れず24―19で福岡が勝利を握った。（内田）

得 0 0 0 3 5 0 0 0 3 3 3 2　19
〔山梨〕田土柳野瀬栖松林賀木保林
久
鶴白青細広中窪小浅青小竹　(1)
GK　FP　（審・酒井　浜田）　PT
山崎田中吉山元田崎藤原尾　(3)
保
〔福岡〕福篠柴田弥中杉久川近孤高
得 0 0 0 6 4 1 2 3 6 0 1 1　24

沖　縄 18（9 9／6 10）16 千　葉

○…両チーム共スピードのある展開をくり返し、見応えのある好ゲーム、一進一退をくり返したが、最後ダメ押し点を奪った沖縄が逃げ切った。両チーム共にキビキビしたプレイが最後まで衰えず観衆をひきつけた。（北井）

得 0 0 3 2 0 4 1 0 3 3 0 0　16
〔千葉〕田貫池川坂間山島入沢下
榎
町島小宮有本横福坂永宮　(0)
GK　FP　（審・水越　上小沢）　PT
〔沖縄〕良謝地井沢城田浜原念島根　(1)
宗
高我下嶺伊金長吉上知高仲
得 0 0 3 0 1 0 2 1 4 2 5 0　18

▼3位決定戦

山　梨 31（17 14／10 6）16 千　葉

○…開始25秒、千葉のロングシュートで始まり、2分山梨のサイドシュートで同点、その後両チーム共多彩な攻撃で10分頃まで一進

一退のゲームが続いたが、しかし、ポスト、ミドル、速攻シュートなどが決まり、前半14－6と山梨が引き離した。後半も前半と同じゲーム展開で、地元の利を生かした山梨が着実に得点し、31－16で千葉を下した。（佐野）

	〔千葉〕	得	〔山梨〕	得
GK	町田	0	鶴田	0
GK	島貫	0	白土	0
FP	小池	7	青柳	2
FP	宮川	2	細野	6
FP	榎	0	広瀬	7
FP	有坂	1	中楯	1
FP	本間	1	窪松	2
FP	横山	0	小林	0
FP	福島	2	浅賀	2
FP	坂入	3	青木	6
FP	永沢	0	小久保	3
FP	宮下	0	竹林	2
PT		(1)		(1)
		16		31

（審・矢澤、横瀬）

▼決勝

福岡 23（13－5、10－12）17 沖縄

◯…前半、福岡は沖縄のディフェンス及びGKの好守に苦しんだが、後半は早い動きにより沖縄のディフェンスミスを誘い、着実に得点をした。また、沖縄は一人一人の動きが、バラバラとなり、得点を重ねるのに苦しんだ。（平井）

	〔沖縄〕	得	〔福岡〕	得
GK	高良	0	福山	0
GK	我謝	0	篠崎	0
FP	下地	3	柴田	0
FP	嶺井	0	田中	3
FP	伊沢	1	弥吉	5
FP	金城	0	中山	1
FP	長田	0	杉元	3
FP	吉浜	3	久保田	3
FP	上原	8	川崎	7
FP	知念	1	近藤	0
FP	高島	1	菰原	1
FP	仲宗根	0	高尾	0
PT		(1)		(4)
		17		23

（審・市瀬、代永）

少年女子

石川（小松市女高）が優勝

▼1回戦

大阪 19（12－7、6－9）15 三重
（選抜）（選抜）

◯…大阪は樋下のロングシュートなどで5分過ぎには4点差としたが、三重も速攻、PTなどで2点差としたが、大阪もGKを中心によく守り、着々と得点をあげ前半を12－6で終了した。後半に入り三重は守備の形をかえてから守り、攻撃のリズムをつかみ、19分には4点差としたが、ミスが多く敗れた。（水越）

	〔三重〕	得	〔大阪〕	得
GK	大橋	0	竹田	0
GK	片岡	0	松本	0
FP	高橋	3	篠原	1
FP	吉川	0	鹿島	5
FP	永峰	4	樋下	3
FP	中田	5	瀬垣	0
FP	矢野	0	金山	1
FP	山崎	1	赤山	0
FP	内田	0	武田	0
FP	三宅	2	橋本	6
FP	戸羽	0	永井	3
FP	中根	0	木下	0
PT		(1)		(2)
		15		19

（審・千野、手塚）

福島 22（11－11、11－6）17 北海道
（全福島）（選抜）

◯…前半立ち上がり、北海道はお互いの動きが合わずミスが目立った。一方福島は、サイド、ミドルで得点を重ねた。少しずつ動きの合って来た北海道は、一時4－6と詰め寄ったが、シュートミスの逆速攻で11－6と福島リードで折り返した。後半に入り、一進一退の攻防となったが、結局前半のリードのまま終了した。（浜田）

	〔北海道〕	得	〔福島〕	得
GK	久保田	0	浜尾	0
GK	笹治	0	早見	0
FP	鷲尾	0	吉田	1
FP	山本	2	小林	1
FP	吉野	2	大河内	2
FP	白幡	7	宗形	0
FP	高田	2	曽部	2
FP	大沢	1	梅津	3
FP	腰本	0	須田	0
FP	高橋	1	古川	0
FP	米田	2	佐藤	6
FP	富田	0	柳内	7
PT		(2)		(2)
		17		22

（審・上久保、北井）

広島 17（7－6、10－8）14 茨城
（選抜）（選抜）

◯…開始早々茨城の攻守のミスが目立ち広島が着実に得点する。その後茨城も立ち直って反撃、両チーム共に一進一退の攻防となる。しかし、後半終了近く広島が突き放した。（平井）

	〔茨城〕	得	〔広島〕	得
GK	篠崎	0	小林	0
GK	小松崎	0	斉藤	0
FP	林	0	田中	3
FP	田中	2	橋本	0
FP	野沢	0	山本	1
FP	山岸	1	川井	10
FP	小林	1	稲田	1
FP	小沼	2	坂本	0
FP	鈴木	1	森山	0
FP	古鶴	5	茶村	0
FP	古谷	2	長久	2
FP	若林	0	吉野	0
PT		(1)		(5)
		14		17

（審・酒井、浜田）

▼準々決勝

石川 23（13－6、10－7）13 大阪
（小松市女）

◯…石川はポストプレーを中心に先行したが、大阪も相手のミスやパスカットから速攻でよく追いついてゆき、10－7で前半を終る。後半に入ると石川が速攻、ロング、サイドとスパートし差がついたが内容的には好ゲームだった。（市瀬）

	〔大阪〕	得	〔石川〕	得
GK	竹田	0	木戸	0
GK	松本	0	岩井	0
FP	篠原	1	千秋	0
FP	鹿島	3	松田	8
FP	樋下	0	林	2
FP	瀬垣	0	上田	2
FP	金山	0	桜井	7
FP	赤山	1	奥村	1
FP	武田	0	池田	0
FP	橋本	4	西田	0
FP	永井	4	堀川	0
FP	木下	0	谷本	3
PT		(1)		(2)
		13		23

（審・上久保、北井）

東京 22（13－7、9－8）15 香川
（選抜）（選抜）

◯…前半東京のオーソドックスな攻めに対し、香川は個人プレーで応戦し近差で終了。後半、香川はGK好守によりチャンスをつくるが、連続得点することができず苦しんだ。一方東京は、両45度のシュートを大事な時に決め、香川を押し切った。（菅野）

	〔香川〕	得	〔東京〕	得
GK	鎌田	0	坂口	0
GK	松川	0	明石	0
FP	木村	1	竹野	2
FP	桃本	5	菊地	4
FP	福崎	1	吉形	0
FP	高藤	2	田鹿	6
FP	赤根	2	井出	5
FP	橋	3	三浦	0
FP	中山	0	星野	1
FP	田中	0	松田	0
FP	松浦	1	森田	4
FP	藤澤	0	能戸	0
PT		(4)		(2)
		15		22

（審・市瀬、代永）

山梨（選抜）26（11－6、15－7）13 福島

○…前半、山梨は動きの悪い福島ディフェンスを攻め、古屋のステップや速攻で着々と得点した。一方福島も柳内のロングで追い上げたが、ミスが多く前半は11－6で終了。後半立ち上がり、山梨はカットインで連続得点、6分過ぎには10点差とし試合を決定づけた。（内記）

〔福島〕		得
GK	浜尾	0
GK	早見	0
FP	吉田	0
FP	小林	1
FP	大河内	1
FP	宗形	0
FP	曽部	1
FP	梅津	2
FP	須田	0
FP	古川	0
FP	佐藤	1
FP	柳内	7
PT	(2)	13

（審・矢澤・横瀬）

〔山梨〕		得
GK	後藤	0
GK	立川	0
FP	古屋真	9
FP	石田	1
FP	土屋	5
FP	井戸	2
FP	中沢	4
FP	山崎	5
FP	武藤	0
FP	古屋直	0
FP	望月	0
FP	古屋知	0
PT	(5)	26

熊本（選抜）31（11－11、12－12、2－1、1－2、3－0、2－1）27 広島

○…広島はPT、ポスト、速攻で3点先行したが、熊本も斉藤がロングシュートで1点差にし、9分過ぎには同点とした。その後、広島は川井を中心にポスト、速攻で得点、一方熊本もロングシュート、ポストを中心に1点を争うゲームとなった。後半に入っても前半と同様の展開で延長戦に。

延長戦も第1延長では結着がつかず、第2延長でようやく熊本が河上、河野の活躍で勝利を得た。（水越）

〔広島〕		得
GK	小林	0
GK	斉藤	0
FP	田中	0
FP	橋本	0
FP	山本	0
FP	川井	13
FP	稲田	3
FP	坂本	1
FP	森山	0
FP	茶村	0
FP	長久	3
FP	吉野	0
PT	(5)	27

（審・稲生・内記）

〔熊本〕		得
GK	清田	0
GK	平田	0
FP	河上	6
FP	酒井	0
FP	斉藤	8
FP	河野	8
FP	田野辺	3
FP	土本	0
FP	中山	6
FP	山下	0
FP	前田	0
FP	宮村	0
PT	(3)	31

▼準決勝

石川 26（11－9、15－9）18 東京

○…東京はディフェンスのつめが良く、攻撃も多彩で健闘し前半は2点差で終了に入るや、ややコンビネーションの乱れからミスの出始めた東京のスキをついて石川はよく動き、徐々に確実に加点しふり切った。（北井）

〔東京〕		得
GK	坂口	0
GK	明石	0
FP	竹野	3
FP	菊地	4
FP	吉形	0
FP	田鹿	2
FP	井出	3
FP	三浦	2
FP	星野	0
FP	松田	0
FP	森田	4
FP	能戸	0
PT	(3)	18

（審・内田・高野）

〔石川〕		得
GK	木戸	0
GK	岩井	0
FP	千秋	2
FP	松田	5
FP	林	8
FP	上田	1
FP	桜井	4
FP	奥村	3
FP	池田	0
FP	西田	1
FP	堀川	0
FP	谷本	2
PT	(1)	26

山梨 13（8－3、5－9）12 熊本

○…前半、山梨は古屋のミドル、ステップなどで点を重ねるのに対し、熊本は一人一人の動きにずれが出てうまく得点を重ねることができない。後半に入ると、熊本の動きが少しずつ良くなり、斉藤のロングシュートでつめ寄る。一進一退の攻撃が続く中、山梨が熊本の追撃をふり切り、1点差で決勝戦に進んだ。（浜田）

〔熊本〕		得
GK	清田	0
GK	平田	0
FP	河上	0
FP	酒井	0
FP	斉藤	6
FP	河野	2
FP	田野辺	1
FP	土本	0
FP	中山	3
FP	山下	0
FP	前田	0
FP	宮村	0
PT	(2)	12

（審・上久保・北井）

〔山梨〕		得
GK	後藤	0
GK	立川	0
FP	古屋真	6
FP	石田	1
FP	土屋	2
FP	井戸	1
FP	中沢	1
FP	山崎	2
FP	武藤	0
FP	古屋直	0
FP	望月	0
FP	古屋知	0
PT	(1)	13

▼3位決定戦

熊本 23（15－5、8－13）18 東京

○…熊本の速攻が効率よく決まるので、セットからのボール回しもスムーズに出る。これに対し、東京は速攻を出すのだが、熊本の素早い帰陣に得点に結びつかず、前半にして大きくリードをされる。後半は東京が必死の反撃を見せ、ジリジリと追い上げたが、熊本も要所で得点をとり逃げ切った。（矢澤）

〔東京〕		得
GK	坂口	0
GK	明石	0
FP	竹野	2
FP	菊地	2
FP	吉形	0
FP	田鹿	7
FP	井出	3
FP	三浦	1
FP	星野	0
FP	松田	0
FP	森田	3
FP	能戸	0
PT	(2)	18

（審・稲生・内記）

〔熊本〕		得
GK	清田	0
GK	平田	0
FP	河上	3
FP	酒井	0
FP	斉藤	6
FP	河野	2
FP	田野辺	3
FP	土本	5
FP	中山	4
FP	山下	0
FP	前田	0
FP	宮村	0
PT	(2)	23

▼決勝

石川 29（16－5、13－11）16 山梨

○…前半は、石川のすべての面で歯車が合い山梨のディフェンスの足が動かず、一方的な大差がついた。

後半に入り、山梨はフォーメーションプレーや混戦の中でのパスフェイントなどでよく健闘したが、前半の失点が多過ぎ、石川の強さを見せつけられた試合だった。（市瀬）

〔山梨〕		得
GK	後藤	0
GK	立川	0
FP	古屋真	8
FP	石田	3
FP	土屋	3
FP	井戸	0
FP	中沢	2
FP	山崎	0
FP	武藤	0
FP	古屋直	0
FP	望月	0
FP	古屋知	0
PT	(4)	16

（審・山下・浜野）

〔石川〕		得
GK	木戸	0
GK	岩井	0
FP	千秋	0
FP	松田	9
FP	林	8
FP	上田	0
FP	桜井	5
FP	奥村	1
FP	池田	1
FP	西田	1
FP	堀川	1
FP	谷本	3
PT	(8)	29



MIZUNO

THE WORLD OF SPORTS



コンケーブ意匠

ヘリボーン意匠

サイドモーション サポートリブ

ピボットリング

フレキシブルゾーン

パワー効率重視。コートのマシン〈ランバード〉

室内コート専用のマルチファンクション ソール。

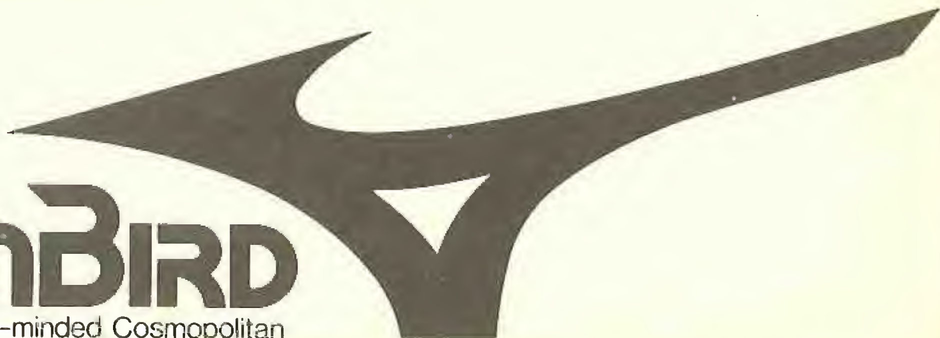
前後左右、あらゆる方向へのトラクション性にすぐれたヘリンボーン意匠をベースに、かかとには着地時の衝撃を吸収、分散するコンケーブ意匠を配置。また、ソール前半にはパワーロスを防ぐサイドモーション サポートリブ、回転運動の軸となるピボットリングをはじめ、屈曲性を高めるフレキシブルゾーンなどをレイアウト。多様なプレーに対応するソールパターンが生まれました。

〈ランバード〉ハンドボール シューズ

《ウイング ショット》¥12,000

●甲/牛革 ●補強材/人工皮革 ●底/ラバー ハーフ シェル ソール

●カラー/16KH-1527 ホワイト・レッドにメタリックネイビー ライン
/16KH-1562 ホワイトにレッド ライン



RUNBIRD

for The Sports-minded Cosmopolitan

各地の記録から・・・

第8回東海中学大会

（8月10、11日／四日市市）

〈男子〉

▼1回戦

東陵 26－6 袖師

西笹川 28－12 陽南

亀山 31－11 雄踏

不破 21－5 高杉

▼準決勝

東陵 24（12－9、12－1）10 西笹川

亀山 22（10－10、12－6）16 不破

▼決勝

東陵 17（8－3、9－7）10 亀山

〈女子〉

▼1回戦

矢田 18－10 東山

西朝明 23－9 清水五

日枝 18－5 清水一

神沢 13－11 西笹川

▼準決勝

矢田 19（11－3、8－5）8 西朝明

神沢 15（8－2、7－6）8 日枝

▼3位決定戦

日枝 18（7－4、11－3）7 西朝明

▼決勝

矢田 16（5－5、7－7、3－1、1－2）15 神沢

第15回九州中学校大会

（8月8、9日／鹿児島県体育館）

〈男子〉

▼1回戦

鶴崎（大分）20－11 神埼（佐賀）

城南（福岡）17－15 安慶田（沖縄）

山田（宮崎）（宮崎）21－19 大瀬戸（長崎）（長崎）

熊本マリスト（熊本）21－14 国分（鹿児島）

▼準決勝

城南 19（11－2、8－6）8 鶴崎

熊本マリスト 24（12－6、12－4）10 山田

▼決勝

熊本マリスト 19（8－6、11－7）13 城南

〈女子〉

▼1回戦

松橋（熊本）14－13 鹿児島大附（鹿児島）

明野（大分）14－10 小禄（沖縄）

大瀬戸（長崎）18－6 神埼（佐賀）

友泉（福岡）16－14 北川（宮崎）

▼準決勝

明野 12（4－4、4－4、2－2、2－1）11 松橋

大瀬戸 16（7－9、9－4）13 友泉

▼決勝

明野 26（14－7、12－4）11 大瀬戸

第34回岐阜県高校総体

（8月16、17日／——）

〈男子〉

▼1回戦

市岐阜商 30－8 中津

斐太 28－8 郡上

岐北 33－16 可児

大垣農 33－7 益田

岐阜南 23－13 大垣南

羽島北 27－21 大垣工

県岐阜商 19－14 岐東

岐阜西工 22－18 加納

▼2回戦

市岐阜商 25－10 斐太

大垣農 21－19 岐北

羽島北 25－15 岐阜南

県岐阜商 16－14 岐阜西工

▼準決勝

市岐阜商 15－11 大垣農

県岐阜商 21－16 羽島北

▼決勝

市岐阜商 23（13－5、10－6）11 県岐阜商

〈女子〉

▼1回戦

斐太 38－7 各務原

大垣農 20－13 瑞浪

県岐阜商 29－6 各務原東

富田 29－2 不破

養女 30－4 郡上

羽島北 15－14 益田

▼2回戦

本巣 25－9 斐太

県岐阜商 16－9 大垣農

富田 21－11 養女

高山 33－2 羽島北

▼準決勝

本巣 27－5 県岐阜商

富田 12－11 高山

▼決勝

本巣 23（11－3、12－8）11 富田

茨城県総合選手権 中学校の部

（不明）

〈男子〉

▼1回戦

土浦三B 22－4 北浦

利根B 25－7 古河一

土浦六B 11－10 新館B

水海道西B 24－13 伊奈B

伊奈東B 15－14 牛久南

▼2回戦

水海道西A 33－8 土浦三B

美浦 25－11 美野里

伊奈東A 32－7 石岡B

高崎B 20－11 麻生一B

利根B 19－11 府中A

勝田二B 17－10 水海道A

伊奈A 24－9 玉造

岩井 22－18 土浦六B

新館A 20－15 水海道西B

勝田二A 27－12 結城

出島北 18－10 千代田

高崎A 21－16 府中B

利根A 24－13 鬼怒

土浦六A 29－7 麻生二B

水海道B 棄権 石岡B

土浦三B 26－10 伊奈東B

▼3回戦

水海道西A 23－4 美浦

高崎B 14－11 伊奈東A

勝田二B 19－17 利根B

岩井 22－8 伊奈A

新館A 23－21 勝田二A

出島北 24－12 高崎A

利根A 20－12 土浦六A

土浦三A 27－4 水海道B

▼準々決勝

水海道西A 27－8 高崎B

岩井 28－17 勝田二B

新館A 23－20 出島北

土浦三A 20－10 利根A

▼準決勝

水海道西A 20－16 岩井

土浦三A 16－14 新館A

▼決勝

土浦三A 18（9－8、9－8）16 水海道西A

〈女子〉

▼1回戦

岩井南B 10－3 水海道西

江戸崎 14－10 石岡

茎崎B 24－5 古河一

▼2回戦

土浦六A 14－7 岩井南B

守谷 31－5 土浦三

北浦B 10－9 麻生B

新館A 23－2 高崎

茎崎A 15－2 水海道B

伊奈A 14－3 牛久南

勝田三A 15－7 牛久一

伊奈東A 28－4 結城B

新館A 38－3 江戸崎

鬼怒 23－3 麻生

利根 14－4 水海道A

勝田二A 29－7 出島北

伊奈東B 17－3 結城A

北浦A 31－6 美野里

土浦六B 不明 伊奈B

岩井南A 22－2 茎崎B

▼3回戦

土浦六A 15―7 守谷
新館B 11―7 北浦B
伊奈A 10―7 茎崎A
伊奈東A 27―2 勝田一B
新館B 13―7 鬼怒
利根 18―14 勝田一A
伊奈東B 13―8 北浦A
岩井南A 17―5 土浦六B

▼準々決勝
土浦六A 15―7 新館B
伊奈東A 19―9 伊奈A
新館A 16―12 利根
岩井南A 17―9 伊奈東B

▼準決勝
土浦六A 14―13 伊奈東A
岩井南A 15―9 新館A

▼決勝
岩井南A 13（9―4、4―7）11 土浦六A

関東実業団選手権

（8月30、31日／岩井市総合体育館ほか）

▼トーナメント予選1回戦
日本原研 30―19 日本原研
日進商会 29―14 日産石油
出光千葉 37―12 美津濃

▼同2回戦
三井石化 26―19 日本原研
東京重機 36―18 日進商会
日本発条 29―22 出光千葉
中村荷役大井 29―21 コスモ石油

▼同敗者復活戦
コスモ石油 32―13 日本原研
出光千葉 12―0 日進商会

※勝者に全日本実連トーナメント大会の出場権を与える。

▼実業団選手権1回戦
中村荷役大井 25―20 自衛隊久里浜
セントラル自警 43―10 三井石化
日本発条 23―19 自衛隊下総

▼同2回戦
大崎電気 31―17 中村荷役大井
中村荷役運輸 21―16 セントラル自警
三景 40―14 東京重機
三陽商会 26―19 日本発条

▼準決勝
大崎電気 29（15―6、14―8）14 中村荷役運輸
三陽商会 24（12―10、12―11）21 三景

▼決勝
大崎電気 41（19―5、22―17）22 三陽商会

埼玉県高校1年生大会

（8月16～19日／筑波大坂戸高）

〈男子〉

▼予選リーグ

○A組
草加 21―13 城西川越
草加 21―13 秩父
城西川越 14―7 秩父

○B組
浦和実 29―5 東農大三
浦和実 18―3 熊谷
東農大三 14―8 熊谷

○C組
岩槻 18―10 川口東
大宮南 18―17 岩槻
川口東 14―11 大宮南

○D組
西武台 17―7 川口青陵
西武台 28―12 三郷工技
川口青陵 16―4 三郷工技

○E組
三郷北 15―12 越谷西
三郷北 10―7 大宮
越谷西 10―5 大宮

○F組
川口工 21―7 桶川西
川口工 12―0 聖望
桶川西 12―0 聖望

○G組
春日部 17―5 春日部共栄
春日部 16―10 秩父農工
春日部共栄 17―11 秩父農工

○H組
春日部工 13―9 朝霞
北本 17―14 春日部工
朝霞 13―10 北本

○I組
越谷南 13―13 春日部東
越谷南 29―8 羽生一
春日部東 13―3 羽生一

○J組
上尾沼南 11―7 大宮北
上尾沼南 11―10 大井
大宮北 7―4 大井

○K組
浦和学院 20―5 埼玉栄
浦和学院 36―1 富士見
埼玉栄 18―7 富士見

○L組
城北埼玉 14―9 小松原
城北埼玉 19―5 浦和南
小松原 10―9 浦和南

○M組
浦和西 28―9 八潮南
浦和西 21―5 志木
八潮南 10―9 志木

○N組
川口北 16―5 久喜工
川口北 21―4 桶川
久喜工 13―13 桶川

○O組
戸田 10―7 杉戸農
戸田 12―0 朝霞西
杉戸農 12―0 朝霞西

○P組
所沢北 9―8 伊奈学園
所沢北 14―8 狭山
伊奈学園 13―7 狭山

○Q組
県坂戸 20―11 庄和
県坂戸 18―5 所沢緑ケ丘
庄和 13―8 所沢緑ケ丘

○R組
川口 15―13 上尾南
川口 25―10 浦和工
上尾南 19―4 浦和工

○S組
上尾東 18―7 草加東
上尾東 19―11 筑波大坂戸
上尾東 20―12 浦和市立
草加東 17―15 筑波大坂戸
草加東 14―5 浦和市立
筑波大坂戸 19―13 浦和市立

●A決勝トーナメント（予選リーグ1位チームによる）

▼1回戦
浦和実 13―10 浦和学院
川口北 19―13 三郷北
所沢北 10―6 春日部

▼同2回戦
浦和実 25－8 草加
岩槻 11－10 城北埼玉
西武台 13－5 浦和西
川口北 24－11 戸田
川口工 16－13 所沢北
県坂戸 16－14 春日部工
越谷南 23－10 川口
上尾東 24－5 上尾沼南

▼準々決勝
浦和実 25－2 岩槻
川口北 12－6 西武台
県坂戸 17－16 川口工
越谷南 16－12 上尾東

▼順位決定戦
西武台 12－0 岩槻
川口工 19－13 上尾東

▼7・8位決定戦
岩槻 14－11 上尾東

▼5・6位決定戦
西武台 14－7 川口工

▼準決勝
浦和実 16－8 川口北
県坂戸 24－13 越谷南

▼3・4位決定戦
川口北 20－15 越谷南

▼決勝
浦和実 20（10－3, 10－2）5 県坂戸

＊浦和実は4年ぶり3度目の優勝

●B決勝トーナメント（予選2位のチームによる）

▼1回戦
東農大三 12－7 筑波大坂戸
越谷西 14－7 八潮南
春日部共栄 25－3 杉戸農
上尾南 11－7 大宮北

▼2回戦
城西川越 10－9 東農大三
大宮南 10－10 埼玉栄 2PTC1
川口青陵 23－8 小松原
越谷西 22－14 久喜工
春日部共栄 23－15 桶川西
北本 14－6 伊奈学園
庄和 15－15 春日部東 2PTC1
草加東 14－7 上尾南

▼準々決勝
城西川越 21－8 大宮南
川口青陵 12－9 越谷西
春日部共栄 14－7 北本
庄和 17－14 草加東

▼準決勝
城西川越 6－5 川口青陵
庄和 12－0 春日部共栄

▼決勝
庄和 9（5－4, 4－2）6 城西川越

〈女子〉

▼予選リーグ

○a組
越谷南 19－9 八潮南
越谷南 19－7 大宮開成
八潮南 8－1 大宮開成

○b組
小松原女 14－10 浦和学院
小松原女 16－6 秩父
浦和学院 9－8 秩父

○c組
浦和南 17－5 狭山
浦和南 12－0 上尾南
狭山 12－0 上尾南

○d組
行田女 20－5 志木
行田女 20－3 戸田
志木 10－10 戸田

○e組
浦和実 15－6 川口東
浦和実 30－6 草加南
川口東 8－6 草加南

○f組
大宮武蔵野 15－7 北本
大宮武蔵野 7－5 秋草学園
北本 6－4 秋草学園

○g組
三郷北 21－3 熊谷女
三郷北 17－12 川口青陵
熊谷女 13－10 川口青陵

○h組
八潮 17－8 上尾東
八潮 14－12 浦和西
上尾東 16－10 浦和西

○i組
伊奈学園 10－9 春日部女
伊奈学園 16－5 草加
春日部女 18－10 草加

○j組
朝霞 15－14 和光
朝霞 10－5 川口北
和光 12－8 川口北

○k組
羽生一 9－6 浦和市立
川口女 13－12 羽生一
浦和市立 13－11 川口女

○l組
春日部共栄 11－7 浦和商
春日部共栄 10－6 筑波大坂戸
浦和商 9－6 筑波大坂戸

●A決勝トーナメント（予選リーグ1位のチームによる）

▼1回戦
三郷北 25－4 小松原女
浦和南 26－11 八潮
浦和実 21－14 朝霞
大宮武蔵野 7－6 羽生一

▼準々決勝
三郷北 19－4 越谷南
浦和南 17－10 伊奈学園
浦和実 15－11 行田女
春日部共栄 12－5 大宮武蔵野

▼順位決定戦
伊奈学園 15－11 越谷南

▼7・8位決定戦
行田女 10－3 大宮武蔵野

▼5・6位決定戦
越谷南 10－5 大宮武蔵野
行田女 14－7 伊奈学園

▼準決勝
三郷北 16－0 浦和南
浦和実 20－7 春日部共栄

▼3・4位決定戦
浦和南 12－0 春日部共栄

▼決勝
浦和実 24（9－11, 10－8, 1－2, 4－1）22 三郷北

※浦和実は3年ぶり2度目の優勝

●B決勝トーナメント（予選リーグ2位のチームによる）

▼1回戦
浦和学院 7－5 筑波大坂戸
上尾東 11－8 狭山
和光 8－4 川口東
川口女 10－5 北本
熊谷女 23－9 浦和商

▼準々決勝
八潮南 14－13 浦和学院
上尾東 19－10 春日部女
和光 12－3 志木
熊谷女 17－8 川口女

▼準決勝
上尾東 19－12 八潮南
熊谷女 15－5 和光

▼決勝
熊谷女 9（8－2, 1－5）7 上尾東

鳥取県高校新人戦

（9月25、28日／倉吉工高）

〈男子〉

▼予選トーナメント1回戦
米子高専 26－12 境港工

※米子高専は次の試合を棄権、境港工が進出した。

米子東 46―15 米子北
境 17―4 倉吉工

▼2回戦
米子西 26―14 境港工
米子東 17―15 倉吉工

▼3回戦
米子東 36―19 米子西

▼敗者復活1回戦
倉吉工 17―11 米子北

▼同2回戦
倉吉工 25―10 境港工

▼同3回戦
境 20―8 倉吉工

▼決勝トーナメント1回戦
境 16―15 米子西
米子北 13―9 米子南

▼3位決定戦
米子南 11―6 米子西

▼決勝
境 16［11―5 5―7］12 米子北

〈女子〉
▼予選リーグ
○Aブロック
米子北 19―5 倉吉産
境 7―4 米子北
境 23―7 倉吉産
［順位］①境②米子北③倉吉産

○Bブロック
米子南 27―8 米子東
米子南 14―6 米子西
米子西 22―6 米子東
［順位］①米子南②米子西③米子東

1年生大会

〈男子〉
▼1回戦
米子北・境 9―7 米子西
米子東 16―7 倉吉工

▼決勝
米子北 10［4―5 6―2］7 米子東

〈女子〉
▼1回戦
米子南・倉産 6―3 米子西

▼決勝
米子北 境 8［6―2 2―6］8 米子南 倉産

みなさんのアイデアで親しまれるハンドボールに

―日本ハンドボール協会の〈協会章〉と〈マスコットマーク〉を募集します―

財団法人日本ハンドボール協会は、昭和62年2月に創立50周年目を迎えます。今、この50周年に向けて「日本ハンドボール史」の作成など、これまでの日本ハンドボール界の歩みをまとめる作業を進めております。

また、それと共に、今後より一層みなさんに愛され、親しまれるハンドボール競技を目指し、日本ハンドボール協会の〈協会章〉（これは協会の公式のマークとなるもの）と〈マスコットマーク〉（これはいわゆる愛称的なマークでより一層親しみやすさをイメージしたもの）を募集することになりました。

全国のハンドボール愛好者の方々のアイデアから素晴らしいマークがデザインされることを期待しております。

応募要領は以下の通りです。

○応募資格　どなたでも結構です。必ず応募作品に住所、氏名、年齢、所属（会社、学校名など）を明記して下さい。作品は何点応募して下さっても結構です。

○締切　昭和62年1月末日必着

○宛先　〒150東京都渋谷区神南一―一―一
岸記念体育館内
日本ハンドボール協会
「マーク」募集係

○謝礼　日本ハンドボール協会理事会にて審査させていただき、採用の際には、各10万円を謝礼として支払わさせていただきます。

尚、その際は、マークの使用権は日本ハンドボール協会に属するものとさせていただきます。



高度なスカイプレーが変幻自在。

スカイハンド®スペシャル（THH705）

- カラー　ホワイト×レッド・レッド×ホワイト・ロイヤルブルー×ホワイト
- サイズ　22.5～28.0cm
- アッパー　ステア表革(ホワイト×レッド)
  牛革ベロア(レッド×ホワイト、ロイヤルブルー×ホワイト)

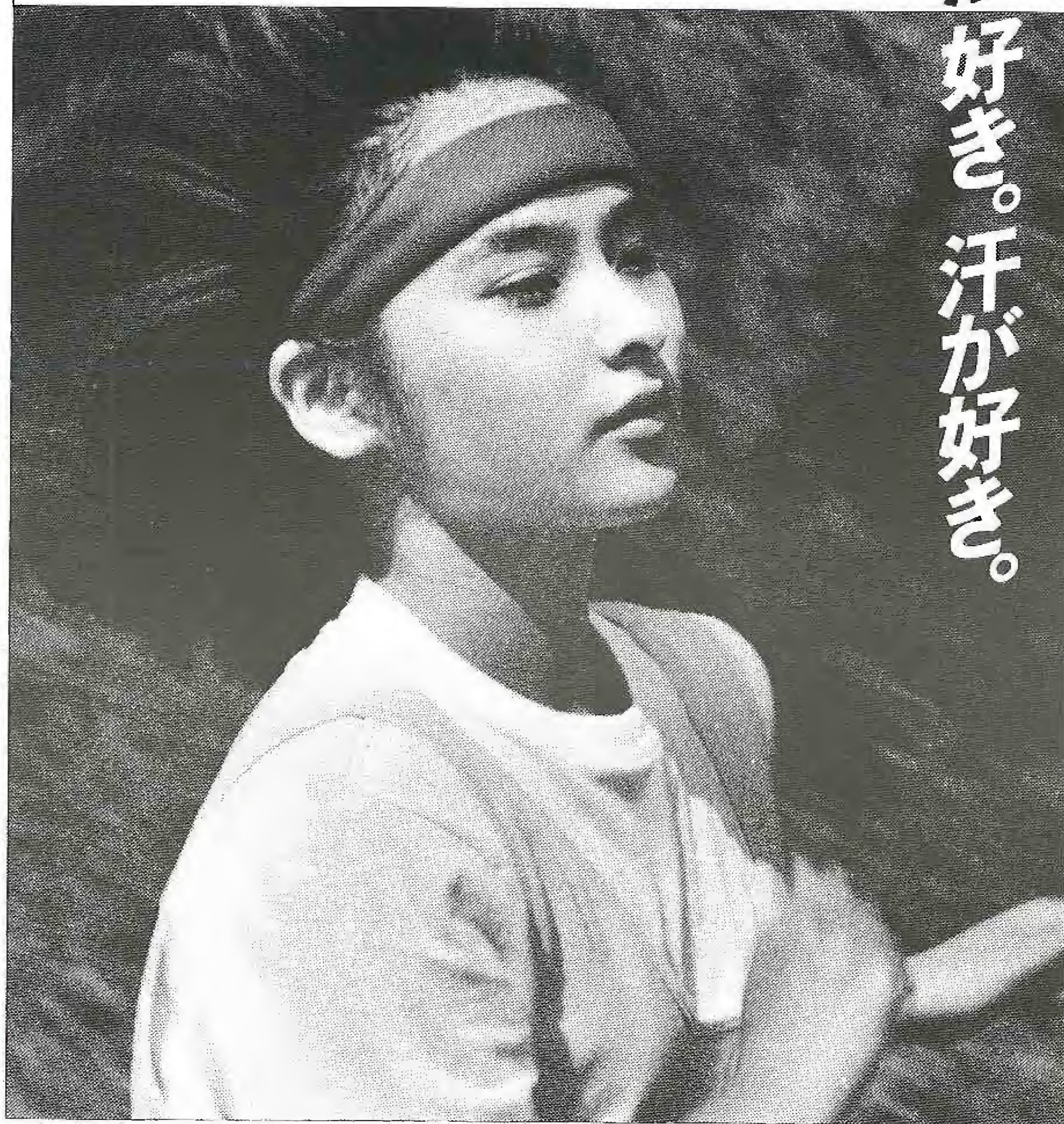
標準小売価格 ¥13,000

asics TIGER

襲う。

ストップ&ジャンプ性能を徹底追求したシューズ、「スカイハンド®スペシャル」。つま先からかかとまで衝撃吸収性に富む超軽量スポンジE・V・A・を内蔵したカップソールが、素晴しい軽さ、ソフトな着地感、ストップ性を獲得しました。アクロバチックなスカイプレイを繰り広げながら、ヒッチコックの「鳥」のような圧倒的迫力でゴールを襲うハンドボーラーに捧げます。

株式会社アシックス



（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二五七号

昭和四十年六月
第三種郵便物認可

昭和六十一年十月二十五日 印刷
昭和六十一年十一月一日 発行

東京都　　南一ー一ー一 編集兼
電話（代）　　）二三六一
振替 東京 六ー五八三四八番 発行人 大野金一

定価三百五拾円
（年間購読料三千三百円）